

世論調査

環境と暮らし 2026

報告書

一般社団法人 長野県環境保全協会
一般社団法人 長野県世論調査協会

I	目的・設計・回答状況	1
II	調査結果 (i) 単純集計	4
	(ii) 概要	8
	(iii) 集計表	36
	(iv) 記述回答	65
III	調査票	74

本ホームページでは、報告書の一部を抜粋して掲載しています。長野県世論調査協会の会員の皆様には、報告書を郵送・電子メールでお届けしており、全ての調査結果をご覧いただくことができます。入会のお問い合わせは、[こちら](#)へどうぞ

本調査は、長野県環境保全協会と長野県世論調査協会の共同調査です。
両協会は 2000 年から環境問題をテーマに世論調査を続けています。

I 目的・設計・回答状況

◆ 目 的

地球温暖化や異常気象の変化が一層身近に感じられる現代。私たちは日々の暮らしの中で、持続可能な社会に向けて、どんな心構えで、どのような行動をとっているのか、どんなことができると考えているのか。本調査は、地球環境問題に対する県民意識をさまざまな視点から探り、これからの未来へ向けてどのような施策が求められているのか、考える材料にする狙いです。

◆ 設 計

▽調査期間	2026（令和8）年4月15日（調査票発送）～5月27日（回収締め切り）
▽調査対象	長野県内に住む18歳以上の男女1,000人
▽抽出方法	層化三段無作為抽出法。市町村の選挙人名簿から無作為抽出
▽調査地点	19市5町6村の計30市町村
▽調査方法	郵送方式。調査票を郵送、回答は郵送、インターネット、ファクスで回収

◆ 回答状況

▽有効回答	575人（男性272人 女性291人 回答しない12人）
▽回 答 率	57.5%

[回収方法別の内訳]（ ）内は比率

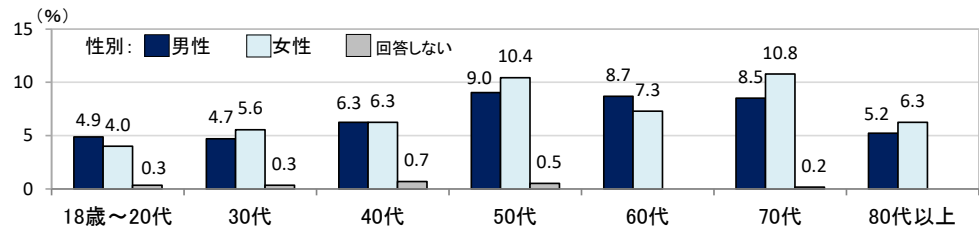
・郵送	357人（62.1%）
・インターネット	204人（35.5%）
・ファクス	14人（2.4%）

【注】・本報告書のパーセント数字は小数点第二位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

有効回答の内訳

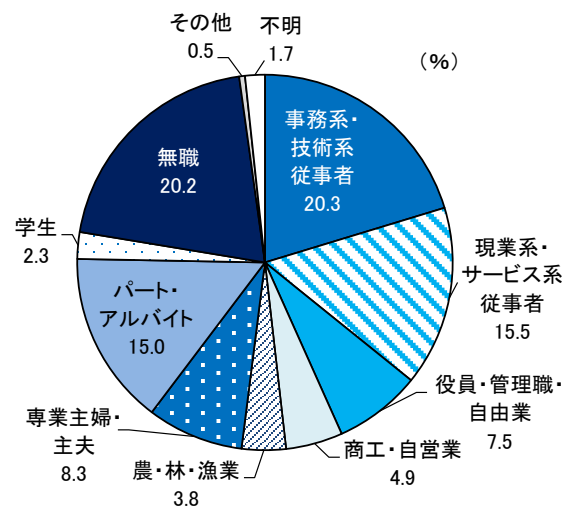
【年代と性別】

		合計	18歳～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
全体	(人)	575	53	61	76	115	92	112	66
	(%)	100.0	9.2	10.6	13.2	20.0	16.0	19.5	11.5
性別	男性	(人)	272	28	27	36	52	50	49
		(%)	47.3	4.9	4.7	6.3	9.0	8.7	8.5
	女性	(人)	291	23	32	36	60	42	62
		(%)	50.6	4.0	5.6	6.3	10.4	7.3	10.8
	回答しない	(人)	12	2	2	4	3	1	—
	(%)	2.1	0.3	0.3	0.7	0.5	—	0.2	—



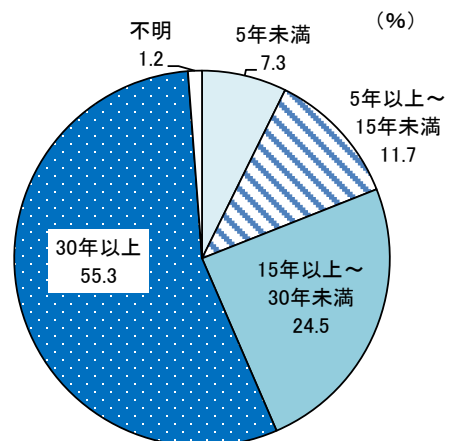
【職業】

	(人)	(%)
事務系・技術系従事者	117	20.3
現業系・サービス系従事者	89	15.5
役員・管理職・自由業	43	7.5
商工・自営業	28	4.9
農・林・漁業	22	3.8
専業主婦・主夫	48	8.3
パート・アルバイト	86	15.0
学生	13	2.3
無職	116	20.2
その他	3	0.5
不明	10	1.7
全体	575	100.0



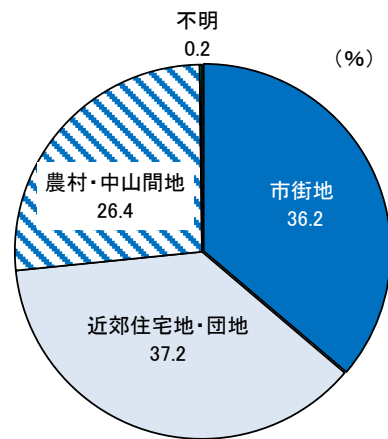
【居住年数】

	(人)	(%)
5年未満	42	7.3
5年以上～15年未満	67	11.7
15年以上～30年未満	141	24.5
30年以上	318	55.3
不明	7	1.2
全体	575	100.0



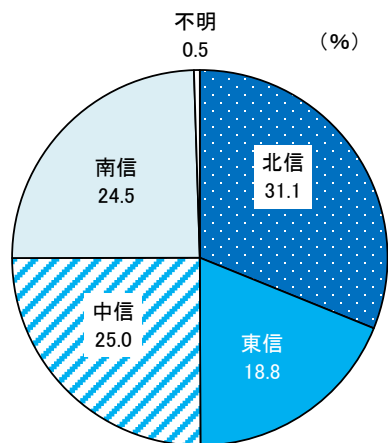
【地域性】

	(人)	(%)
市街地	208	36.2
近郊住宅地・団地	214	37.2
農村・中山間地	152	26.4
不明	1	0.2
全体	575	100.0



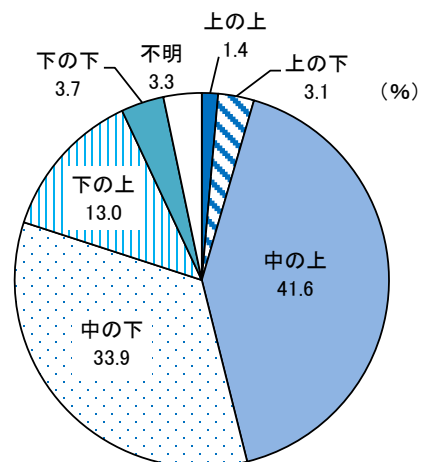
【地域】

	(人)	(%)
北信	179	31.1
東信	108	18.8
中信	144	25.0
南信	141	24.5
不明	3	0.5
全体	575	100.0



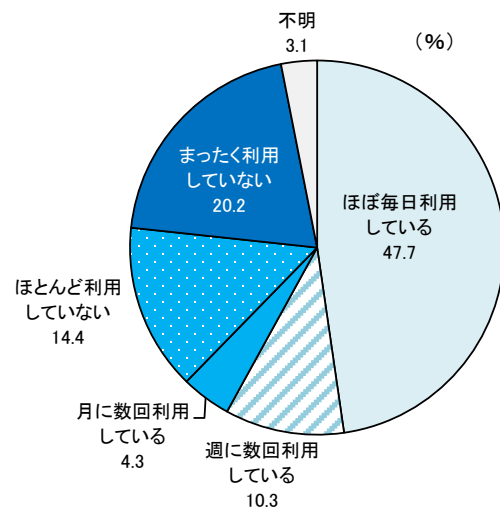
【暮らし向き】

	(人)	(%)
上の上	8	1.4
上の下	18	3.1
中の上	239	41.6
中の下	195	33.9
下の上	75	13.0
下の下	21	3.7
不明	19	3.3
全体	575	100.0



【SNSの利用頻度】

	(人)	(%)
ほぼ毎日利用している	274	47.7
週に数回利用している	59	10.3
月に数回利用している	25	4.3
ほとんど利用していない	83	14.4
まったく利用していない	116	20.2
不明	18	3.1
全体	575	100.0



Ⅱ 調査結果

(i) 単純集計

問1 あなたが、地球環境問題を考えるときに、特に心配なことは何ですか。次の中から、3つ以内に絞って教えてください。

	(人)	(%)
・気候変動・地球温暖化問題 (CO ₂ 排出、メタンガス、オゾン層破壊、異常気象、海面上昇等)	443	77.0
・廃棄物・ごみ・資源問題 (不法投棄、埋立地不足、食品ロス、家電リサイクル、使い捨て文化拡大など)	219	38.1
・水質・水資源問題 (水質汚染、浄水資源の枯渇、地下水汚染、農業用水の不足等)	170	29.6
・森林と土地の問題 (森林伐採、森林火災、砂漠化、土地の劣化等)	164	28.5
・グローバル課題・未来問題 (環境難民、戦争による破壊、人口問題、SDGSの形骸化など)	143	24.9
・大気汚染と有害物質 (黄砂、アスベスト、ダイオキシン、酸性雨、光化学スモッグ等)	137	23.8
・生物多様性と生態系の危機 (絶滅危惧種、外来種、生物多様性の損失、鳥類・昆虫の減少等)	108	18.8
・化学・技術・エネルギー問題 (原発事故と放射能汚染、再生可能エネルギーの遅れ、水素エネルギー、レアアース、農業・化学肥料など)	101	17.6
・海洋問題 (マイクロプラスチック、サンゴ礁白化、酸性化等)	95	16.5
・都市・生活環境問題 (騒音公害、光害、空き家、景観破壊、都市交通による環境負荷など)	64	11.1
・その他	2	0.3
・特になし	5	0.9
・不明	2	0.3

問2 あなたは現在、気候変動・地球温暖化に関心がありますか。

	(人)	(%)
・関心がある	272	47.3
・ある程度関心がある	239	41.6
・あまり関心はない	46	8.0
・関心はない	5	0.9
・何とも言えない・わからない	12	2.1
・不明	1	0.2

問3 ここ数年で気候変動・地球温暖化についてどの程度実感していますか。

	(人)	(%)
・非常に実感している	360	62.6
・やや実感している	176	30.6
・どちらとも言えない	29	5.0
・あまり実感していない	6	1.0
・まったく実感していない	2	0.3
・不明	2	0.3

問4 あなたは現在、生物多様性の喪失に関心がありますか。

	(人)	(%)
・関心がある	126	21.9
・ある程度関心がある	233	40.5
・あまり関心はない	147	25.6
・関心はない	29	5.0
・何とも言えない・わからない	39	6.8
・不明	1	0.2

問5 ここ数年で生物多様性の喪失についてどの程度実感していますか。

	(人)	(%)
・非常に実感している	81	14.1
・やや実感している	214	37.2
・どちらとも言えない	170	29.6
・あまり実感していない	91	15.8
・まったく実感していない	16	2.8
・不明	3	0.5

問6 あなたは日ごろ、次に挙げる環境のためになること(環境に配慮した暮らし)の行動例のうち、実行していることはありますか。あてはまるものを全て挙げてください。

	(人)	(%)
・ごみの分別やリサイクルを心掛けている	452	78.6
・マイバッグやマイボトルを使用している	438	76.2
・詰め替え製品(洗剤など)の購入を心掛けている	426	74.1
・省エネ、節電を実施している	386	67.1
・ごみの排出削減(食べ残し削減、家庭の食品ロス削減など)を心掛けている	308	53.6
・節水を実施している	292	50.8
・エコドライブ(アイドリングストップや急発進・急加速をしない等)を心掛けている	278	48.3
・宅配便の1回での受け取り(日時指定や置き配などにより再配達削減)を心掛けている	269	46.8
・洗濯や食器洗いの洗剤の量を控えめにしている	210	36.5
・地場産食材の購入を心掛けている	201	35.0
・省エネ性能を意識して家電を買い替えている	114	19.8
・EVやハイブリッド自動車などエネルギー効率の良い車に乗っている	112	19.5
・太陽光パネルを設置している	102	17.7
・エコラベル(エコマークなど)掲載商品の購入を心掛けている	74	12.9
・公共交通機関や自転車を積極的に利用している	62	10.8
・環境に関する講習会や勉強会に参加したことがある	38	6.6
・野生生物保護、自然再生、外来動植物駆除(アレチウリ駆除等)の活動に参加したことがある	35	6.1
・自然観察会に参加したことがある	28	4.9
・不明	5	0.9

問7 これから実行しようと思うこと、より努力したり協力したりしようと思うことはありますか。

	(人)	(%)
・省エネ、節電の実施	372	64.7
・ゴミの分別やリサイクルを心掛ける	367	63.8
・ごみの排出削減(食べ残し、食品ロス削減等)を心掛ける	344	59.8
・マイバッグ、マイボトル使用	341	59.3
・節水実施	325	56.5
・詰め替え製品購入	312	54.3
・洗濯・食器洗い洗剤量の削減	266	46.3
・LED や省エネ性能の高い家電へ買い替え	248	43.1
・エコドライブの心掛け	236	41.0
・宅配便の1回での受け取り	236	41.0
・地場産食材の購入	230	40.0
・エコラベル(エコマーク)掲載商品購入	144	25.0
・公共交通機関や自転車の積極利用や徒歩での移動	109	19.0
・EV やハイブリッド等エネルギー効率の良い車への買い替え	100	17.4
・住宅の断熱性能を高める、又は高断熱住宅を購入	90	15.7
・野生生物保護、自然再生、外来動植物駆除等活動参加	59	10.3
・環境に関する講習会や勉強会への参加	51	8.9
・太陽光パネルの設置	42	7.3
・太陽光以外の再生可能エネルギーを利用(小水力・地熱等)	40	7.0
・自然観察会への参加	34	5.9
・不明	13	2.3

問8 あなたは主要な温室効果ガスである二酸化炭素(CO₂)排出量が実質ゼロの社会(ゼロカーボン社会)では、暮らしの利便性はどのようになると思いますか。

	(人)	(%)
・今と同じくらい便利な社会	135	23.5
・我慢を強いられる不便な社会	99	17.2
・今より快適で便利な社会	82	14.3
・その他	9	1.6
・何とも言えない・わからない	230	40.0
・不明	20	3.5

問9 現在は利用する電力会社を選べますが、発電方式で選択するとしたら、どの発電方式が望ましいと思いますか。次の中から、あてはまるものを全て挙げてください。

	(人)	(%)
・再生可能(自然)エネルギー(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど)	422	73.4
・購入せず自家発電で自給自足する(太陽光、エネファーム=ガスなどによる発電)	117	20.3
・原子力	105	18.3
・石炭・天然ガスなどの火力	84	14.6
・その他	8	1.4
・特に気にしていない・わからない	77	13.4
・不明	6	1.0

問10 太陽光発電は、クリーンなエネルギーで環境にやさしいだけでなく、その電気を自宅で使うことで電気代を削減したり、災害にも備えることができます。あなたの自宅では、太陽光発電を導入していますか。

	(人)	(%)
・太陽光発電を導入している	112	19.5
・今はしていないが、今後導入したい	60	10.4
・導入する予定はない	322	56.0
・(マンション・賃貸などで)導入できない	72	12.5
・不明	9	1.6

問11 (問10で「太陽光発電を導入している」とお答えの方にお尋ねします)太陽光発電の導入を決めた理由は何ですか。

	(人)	(%)
・電気代を節約できるから	58	51.8
・売電収入が得られるから	26	23.2
・災害・停電へ備えることができるから	8	7.1
・ゼロカーボンに貢献できるから	4	3.6
・設備するのが当たり前だから	4	3.6
・その他	7	6.3
・特になし	4	3.6
・不明	1	0.9

問12 (問10で「導入する予定はない」とお答えの方にお尋ねします)あなたが太陽光発電を導入しない理由として一番大きなものを選択してください。

	(人)	(%)
・設置費用が高いから	87	27.0
・導入を検討する余裕がないから	71	22.0
・ご自宅が太陽光発電に適していないから(例:日当たりが悪い、積雪が多い、築年数等により設置が困難など)	57	17.7
・どれくらいお得かわからないから	33	10.2
・太陽光発電に興味がない・嫌いだから	22	6.8
・適切なメーカー・販売業者、設置の方法等がわからないから	6	1.9
・その他	42	13.0
・不明	4	1.2

問13 長野県で実施している以下の A、B、C のプロジェクトについて①～③の番号に○印を付けてください。

A 信州スマートムーブウィーク

	(人)	(%)
・知っており実践している	6	1.0
・知っているが実践していない	29	5.0
・知らない	512	89.0
・不明	28	4.9

B 信州プラスチックスマート運動

	(人)	(%)
・知っており実践している	30	5.2
・知っているが実践していない	27	4.7
・知らない	490	85.2
・不明	28	4.9

C 食べ残し～e-プロジェクト～

	(人)	(%)
・知っており実践している	96	16.7
・知っているが実践していない	75	13.0
・知らない	382	66.4
・不明	22	3.8

問14 あなたは、通勤の際、主に何を利用していますか。

	(人)	(%)
・マイカー・社用車等の自動車	269	74.3
・徒歩	26	7.2
・自転車、バイク	20	5.5
・公共交通機関	8	2.2
・在宅勤務が中心	8	2.2
・その他	2	0.6
・不明	29	8.0

問15 電気自動車(EV)の購入を検討する場合、どのような懸念事項がありますか。次の中からあてはまるものを全てに○印を付けてください。

	(人)	(%)
・購入価格が高い	229	63.3
・外出先で充電できる場所が少ない	213	58.8
・積雪時や山間部での走行に不安がある	179	49.4
・充電に時間がかかる (外出先の急速充電器の容量が小さい)	157	43.4
・満充電で走れる距離が短い	149	41.2
・車種が少ない	122	33.7
・自宅に充電器が設置できない (集合住宅など)	87	24.0
・その他	21	5.8
・不明	32	8.8

問16 長野県民1人当たりの1日のごみ(一般廃棄物)排出量は、令和5年度実績で770gと全国トップ水準(4位)です。あなた自身の生活の中から出るごみの量についてどう思いますか。

	(人)	(%)
・もっと減らす余地がある	243	42.3
・現在の量を維持したい	241	41.9
・もっと多く出そうだ	16	2.8
・その他	7	1.2
・何とも言えない・わからない	62	10.8
・不明	6	1.0

問17 容器、袋など、プラスチックごみによる、海洋汚染などが問題化しています。プラスチックごみを減らすために、あなたが日ごろ、心掛けていることはありますか。次の中から、あてはまるものを全て挙げてください。

	(人)	(%)
・マイバッグやマイボトルを使用する	460	80.0
・分別・リサイクルをする	437	76.0
・詰め替え製品を利用する	433	75.3
・レジ袋は買わない、または受け取らない	356	61.9
・河川一斉清掃等のボランティア活動に参加する	77	13.4
・その他	8	1.4
・特になし	16	2.8
・不明	4	0.7

問18 あなたは、次に挙げるエシカル消費(※)につながる行動について、実践しているものはありますか。あてはまるものを全て挙げてください。

	(人)	(%)
・マイバッグ・マイ箸・マイカップ等の利用	440	76.5
・電気をこまめに消す等の省エネ	415	72.2
・食品ロス削減	341	59.3
・国産品の購入	287	49.9
・地産地消(地場産食材の購入)	263	45.7
・リサイクル活動・リサイクル品の購入	193	33.6
・環境に配慮した商品(エコカー、エコラベル商品、持続可能な林産物海産物等を含む)の購入	93	16.2
・太陽光・風力発電など再生可能エネルギーの利用・購入	92	16.0
・有機食品・製品の購入	75	13.0
・被災地へお金の寄付や物資提供	75	13.0
・地域コミュニティ活動への参加	72	12.5
・その他	2	0.3
・不明	15	2.6

問19 あなたは、環境問題に関する次のことば(用語、キーワード)を知っていますか。知っているものを全て挙げてください。

	(人)	(%)
・EV(電気自動車)	504	87.7
・食品ロス	463	80.5
・カーボンニュートラル(ゼロカーボン)	380	66.1
・SDGs(持続可能な開発目標)	345	60.0
・森林税(長野県森林づくり県民税)	277	48.2
・マイクロプラスチック	256	44.5
・30・10 運動	141	24.5
・GHG(温室効果ガス)	131	22.8
・FCV(燃料電池自動車)	105	18.3
・小水力発電	95	16.5
・長野県ゼロカーボン戦略(ロードマップ)	55	9.6
・ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)・ZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)	53	9.2
・GX(グリーントランスフォーメーション)	52	9.0
・ESD(持続可能な開発のための教育)	39	6.8
・ESG(環境・社会・企業統治)投資	36	6.3
・IPCC(気候変動に関する政府間パネル)	34	5.9
・サーキュラーエコノミー	27	4.7
・カーボンフットプリント	21	3.7
・くらしふと信州	17	3.0
・ネイチャーポジティブ	16	2.8
・デコ活(脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動)	12	2.1
・信州屋根ソーラーポテンシャルマップ	8	1.4
・不明	21	3.7

問20 あなたは、「長野県環境保全協会」を知っていますか。

	(人)	(%)
・知っている	37	6.4
・聞いたことはある	230	40.0
・知らない	299	52.0
・不明	9	1.6

問21 長野県環境保全協会では、次のような事業を行っています。あなたが、知っている事業がありましたら、全て挙げてください。

	(人)	(%)
・信州エコ大賞の表彰	75	13.0
・信州スマートムーブ通勤ウィーク (旧県下一斉ノーマイカー通勤ウィーク)	67	11.7
・テレビ番組「エコロジー最前線」の提供	62	10.8
・「うんこドリル地球温暖化長野県編」の提供	57	9.9
・年末(年始)のカレンダー・手帳プレゼント会の実施	55	9.6
・小中学生を対象とした「2050 信州ゼロカーボンチャレンジ」の実施	50	8.7
・再配達削減キャンペーンの実施	45	7.8
・信州環境フェアの実施 (実行委員会への参画)	26	4.5
・地球温暖化防止活動推進センターの運営	25	4.3
・FM 長野・LCV・FM ぜんこうじの環境コーナーへの出演	18	3.1
・県内各地の環境イベントへの出展	15	2.6
・デジタル地球儀 (触れる地球儀・スフィア)を活用したセミナー等の開催	12	2.1
・信州環境イベントポータル「信州えこなび」の運営	12	2.1
・会報誌「エコシン」の発行	11	1.9
・くらしふと信州のコーディネート業務	11	1.9
・信州環境カレッジの運営	10	1.7
・環境啓発に関する教材や実験機器等の貸出	9	1.6
・知っている事業はない	298	51.8
・不明	37	6.4

問22 地球温暖化または環境問題の全般について、思うところがありましたら、お書きください

(自由回答 69～73 ページ)

(ii) 概要

有効回答 575 人

地球環境問題への関心

問1 あなたが、地球環境問題を考えるときに、特に心配なことは何ですか。次の中から、3つ以内に絞ってお答えください。

◆「気候変動・温暖化」が8割近くで突出

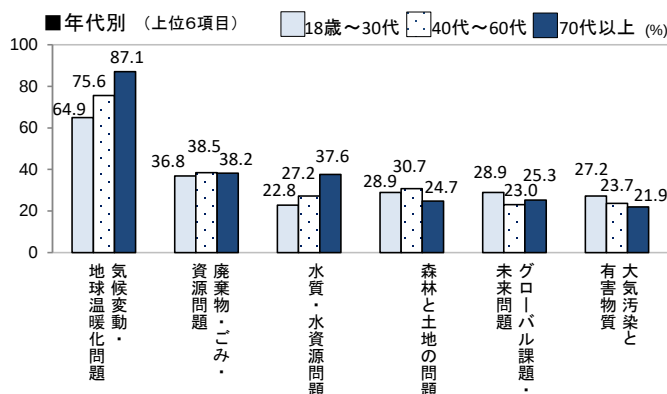
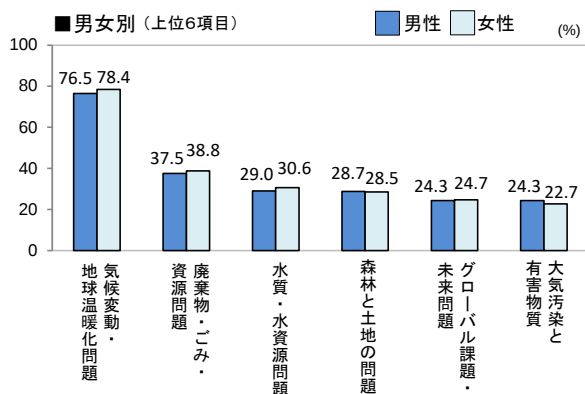
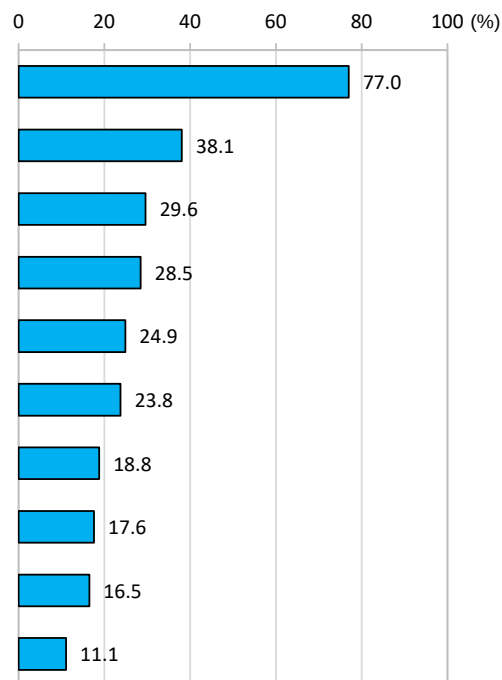
集計表36～37ページ

地球環境問題について特に心配なことを3つ以内で聞いたところ、「気候変動・地球温暖化問題」が77.0%で突出して高く、全体の8割近くを占めた。次いで「廃棄物・ごみ・資源問題」38.1%、「水質・水資源問題」29.6%、「森林と土地の問題」28.5%、「グローバル課題・未来問題」24.9%、「大気汚染と有害物質」23.8%の順となった。

近年の猛暑や豪雨災害などの影響もあり、環境問題の中でも気候変動への関心が際立つ結果となった。一方で、ごみ問題や水資源、森林保全など、暮らしに身近な環境課題への関心も比較的高かった。

男女別にみると、「気候変動・地球温暖化問題」は男性76.5%、女性78.4%で大きな差はみられなかった。「廃棄物・ごみ・資源問題」も男性37.5%、女性38.8%とほぼ同水準だった。一方、「海洋問題」は男性18.4%、女性14.8%で男性がやや高かった。

年代別にみると、「気候変動・地球温暖化問題」はすべての年代で最多となった。18歳～30代では64.9%、40代～60代では75.6%、70代以上では87.1%となり、高齢層ほど割合が高かった。また、18歳～30代では「生物多様性と生態系の危機」が32.5%と他年代より高く、若年層で生態系への関心が比較的高い傾向もうかがえた。

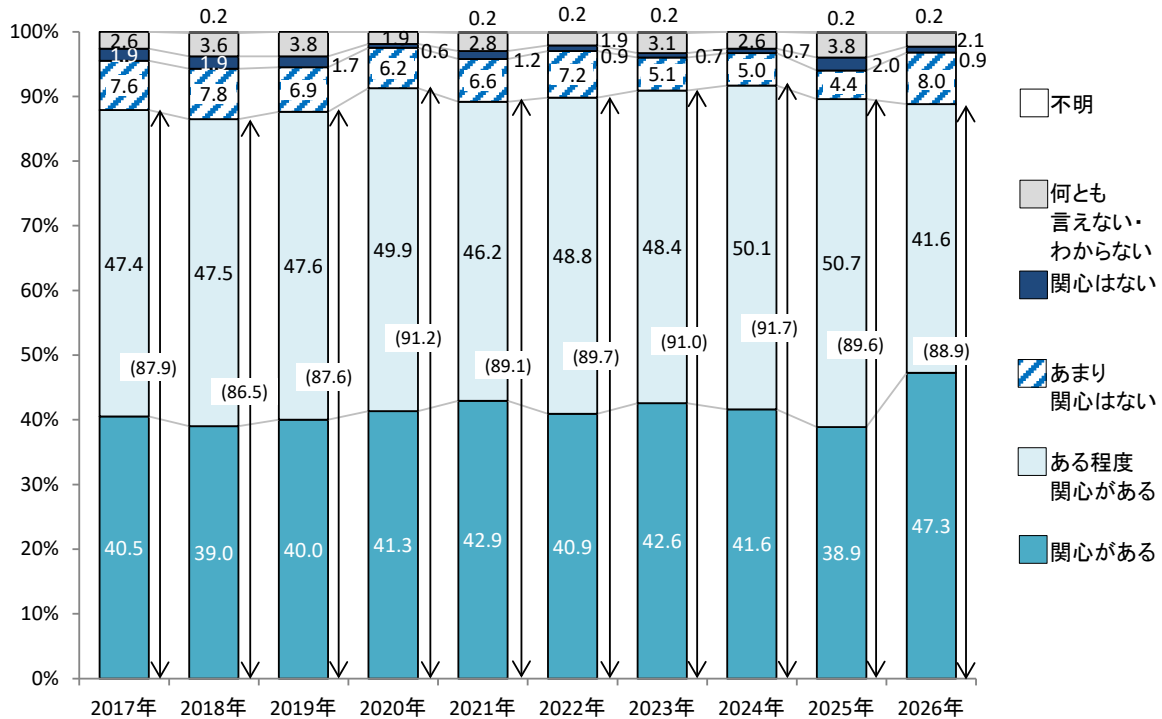


気候変動への関心

問2 あなたは現在、気候変動・地球温暖化に関心がありますか。

◆気候変動への関心 9 割近く

集計表38ページ

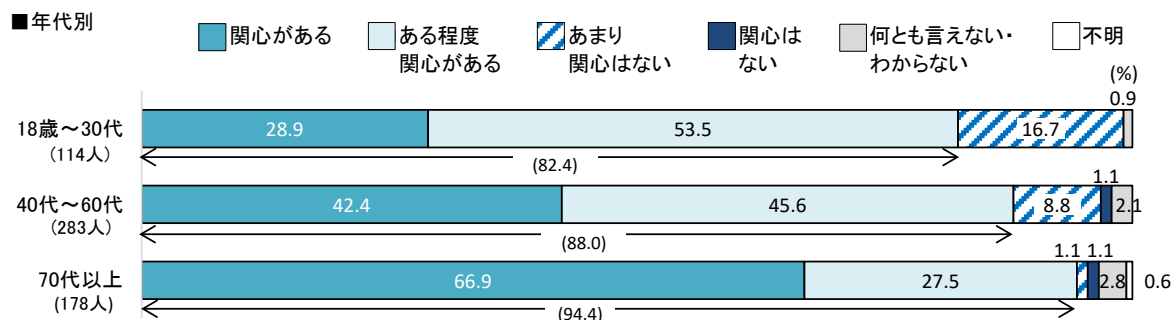


現在の気候変動・地球温暖化への関心について聞いたところ、「関心がある」が 47.3%、「ある程度関心がある」が 41.6%となり、関心があるとする回答は合計 88.9%に達した。一方、「あまり関心はない」は 8.0%、「関心はない」は 0.9%にとどまった。

関心層はわずかに微減傾向だが、過去 10 年でみても気候変動問題は、県民のほぼ 9 割が関心を持つテーマとなっており、環境問題の中でも特に関心が高い分野であることが浮き彫りとなった。

男女別でみると、関心があるとの回答は男性 85.7%、女性 91.4%で、女性が 5.7 ポイント高かった。一方、「あまり関心はない」「関心はない」の合計は男性 13.6%、女性 4.8%となり、男性の方がやや関心が低い傾向がみられた。

年代別にみると、関心があるとする回答の合計は 18 歳～30 代が 82.4%、40 代～60 代が 88.0%、70 代以上が 94.4%となり、高齢層ほど関心が高かった。特に 70 代以上では「関心がある」が 66.9%に達し、他年代を大きく上回った。



気候変動の実感

問3 ここ数年で気候変動・地球温暖化についてどの程度実感していますか。

◆気候変動を実感9割超

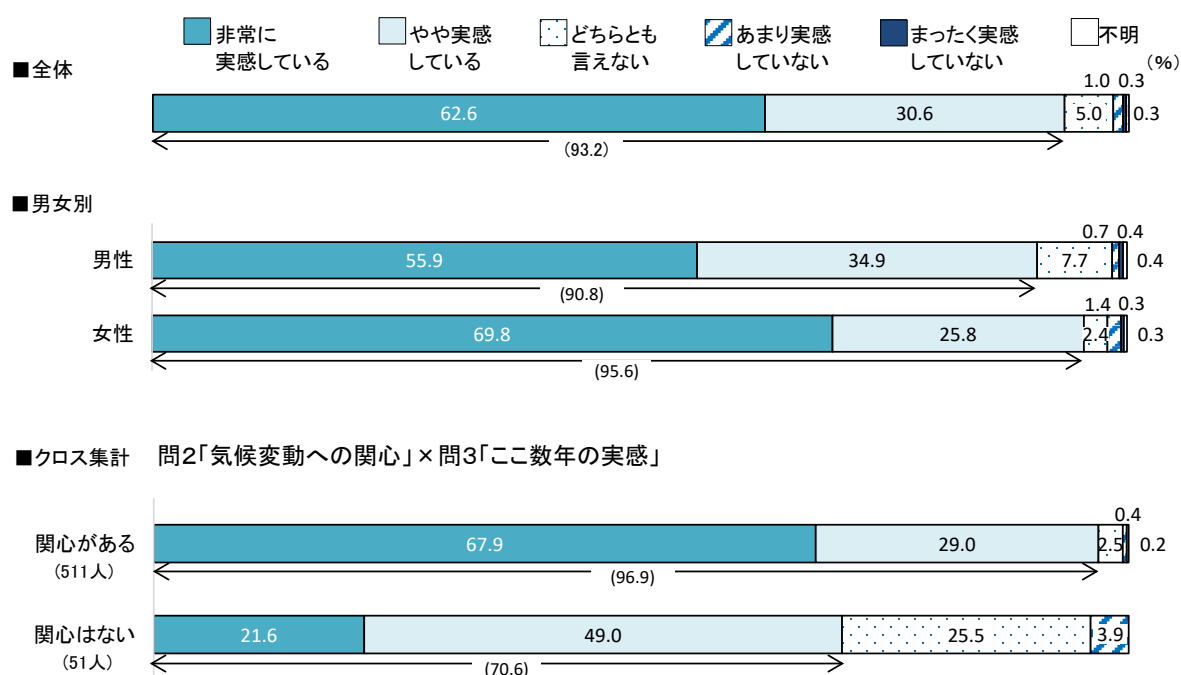
集計表39ページ

ここ数年で気候変動・地球温暖化をどの程度実感しているか聞いたところ、「非常に実感している」が62.6%、「やや実感している」が30.6%となり、実感しているとの回答は合計93.2%に達した。一方、「あまり実感していない」と「まったく実感していない」の合計は1.3%にとどまった。

猛暑や豪雨、暖冬などの異常気象が続く中で、気候変動を身近な問題として受け止めている県民が大多数を占める結果となった。

男女別にみると、実感しているとの回答は男性90.8%、女性95.6%で、女性が4.8ポイント上回った。特に「非常に実感している」は女性が69.8%で、男性の55.9%を13.9ポイントも上回った。

問2（気候変動への関心）とのクロス集計でみると、関心がある層が関心のない層に比べ「非常に実感している」の割合が3倍超の67.9%と圧倒的に高かった。関心のない層は「やや実感している」や「どちらとも言えない」「あまり実感していない」の割合が相対的に高い結果となった。気候変動への関心と実感には相当の関連性が認められる。



生物多様性喪失への関心

問4 あなたは現在、生物多様性の喪失に関心がありますか。

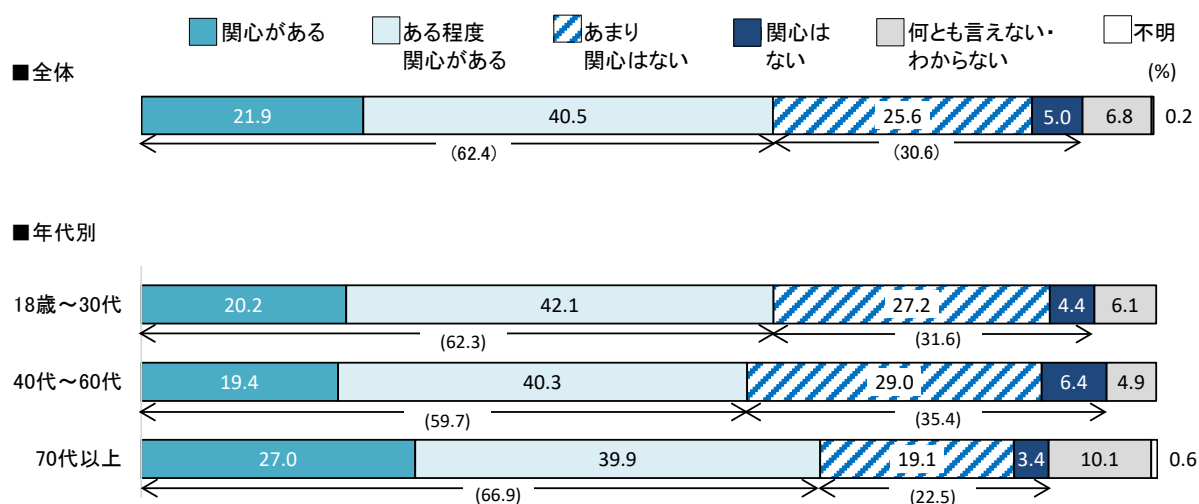
集計表40ページ

◆生物多様性への関心 6割超

現在の生物多様性の喪失への関心について聞いたところ、「関心がある」が21.9%、「ある程度関心がある」が40.5%となり、関心があるとの回答者層は合計62.4%となった。一方、「あまり関心はない」と「関心はない」の合計は30.6%だった。

気候変動への関心と比べると割合は低いものの、生物多様性の問題についても6割を超える県民が関心を示している結果となった。

年代別にみると、関心があるとの回答は18歳～30代が62.3%、40代～60代が59.7%、70代以上が66.9%となり、高齢層でやや高かった。一方、40代～60代では「あまり関心はない」「関心はない」の合計が35.4%となり、他年代より高い割合を占めた。男女別にみると、関心があるとの回答は男性62.2%、女性62.9%で大きな差はみられなかった。



生物多様性喪失の実感

問5 ここ数年で生物多様性の喪失についてどの程度実感していますか。

◆生物多様性喪失を実感5割超

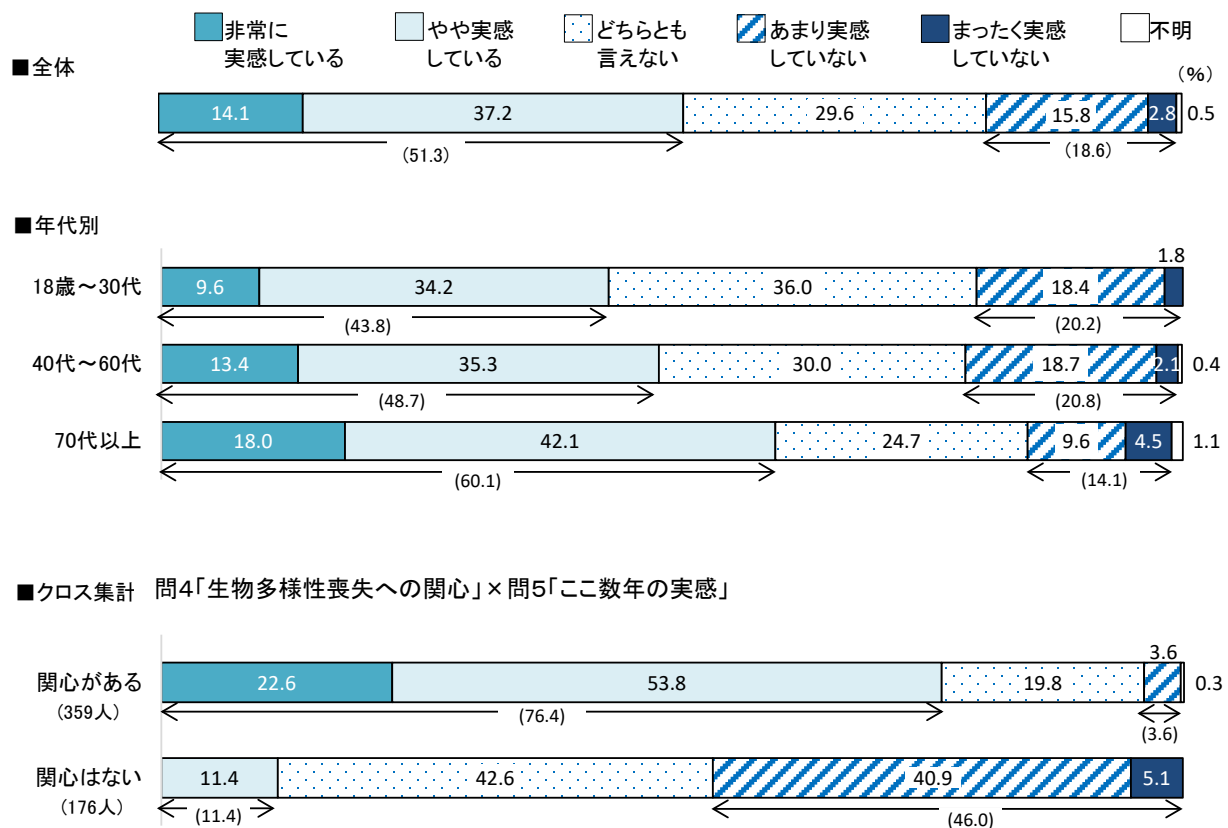
集計表41ページ

ここ数年で生物多様性の喪失をどの程度実感しているか聞いたところ、「非常に実感している」が14.1%、「やや実感している」が37.2%となり、実感しているとの回答は合計51.3%となった。一方、「あまり実感していない」と「まったく実感していない」の合計は18.6%だった。「どちらとも言えない」も29.6%を占めた。

男女別でみると、実感しているとの回答は男性50.0%、女性52.6%で大きな差はみられなかった。

年代別にみると、実感しているとの回答は18歳～30代が43.8%、40代～60代が48.7%、70代以上が60.1%となり、高齢層ほど高かった。特に70代以上では「あまり実感していない」「まったく実感していない」の合計が14.1%にとどまり、他年代より低かった。

問4（生物多様性喪失への関心）とのクロス集計をみると、関心がある層の「実感している」との回答割合が計76.4%に上り、関心がない層に比べ、7倍近い結果となった。生物多様性喪失への関心と実感には強い関連性がみてとれた。



環境のために現在実行している行動

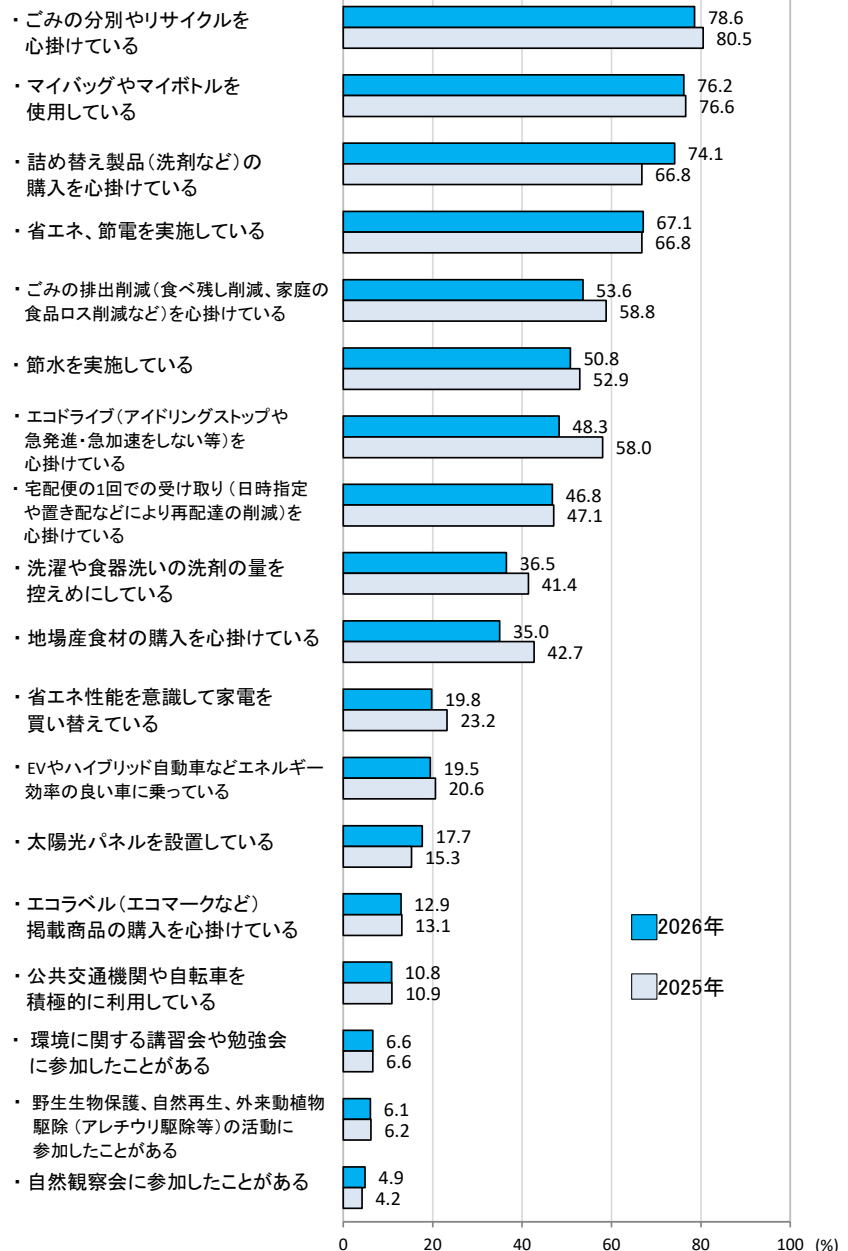
問6 あなたは日ごろ、次に挙げる環境のためになること（環境に配慮した暮らし）の行動例のうち、実行していることはありますか。あてはまるものを全て挙げてください。

◆環境配慮行動は広く定着、若年層では実践数の少なさも

集計表42～43ページ

日ごろ実行している環境配慮行動について尋ねたところ、「ごみの分別やリサイクルを心掛けている」が78.6%で最も高く、以下、「マイバッグやマイボトルを使用している」(76.2%)、「詰め替え製品の購入を心掛けている」(74.1%)、「省エネ、節電を実施している」(67.1%)などが続いた。特に「詰め替え製品の購入」は前年に比べて比較的大きく伸び、7.3ポイント上昇となった。

身近な暮らしの中で取り組みやすい行動は全般に高い実施率を示した一方で、「環境に関する講習会や勉強会への参加」(6.6%)、「野生生物保護、自然再生、外来動植物駆除の活動に参加」(6.1%)、「自然観察会に参加」(4.9%)など、地域活動や学習活動への参加は比較的少なかった。



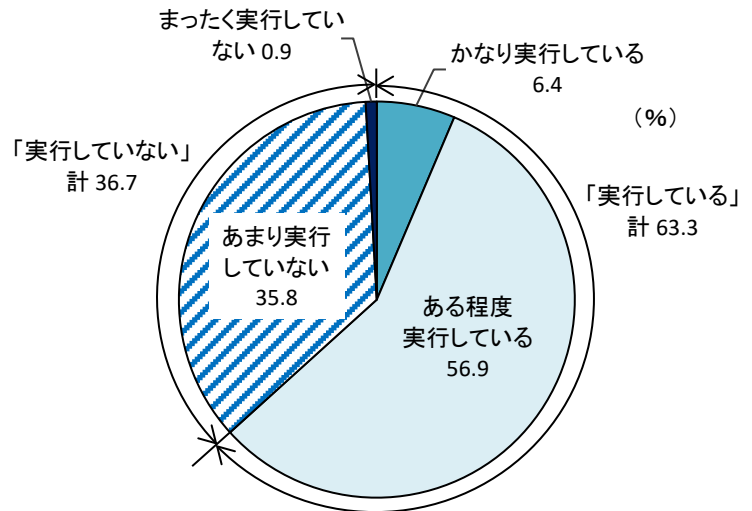
問 6 続き

環境行動の実践数を4分類して集計してみると、「ある程度実行している（6～11項目）」層が56.9%で最も多く、「かなり実行している（12項目以上）」層は6.4%であった。一方、「あまり実行していない（1～5項目）」層は35.8%、「まったく実行していない（0項目）」層は0.9%となっている。

前年の調査結果と比較しても、「ある程度実行している」（0.1ポイント上昇）、「かなり実行している」（2.0ポイント下降）ともにほぼ横ばいで、両者を合わせた「実行している」層は6割超を維持。環境配慮行動が県民の日常生活の中に

一定程度定着している様子がうかがえる。「あまり実行していない」（2.4ポイント上昇）、「まったく実行していない」（0.6ポイント下降）も大きな変化はみられなかった。

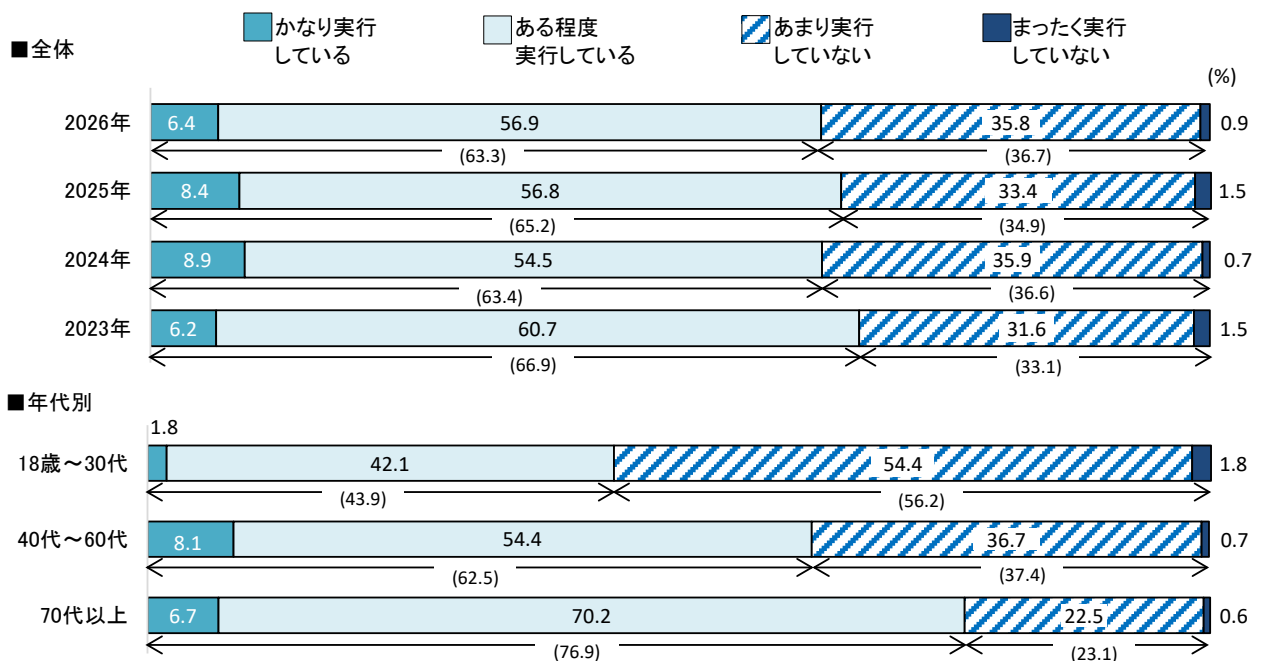
年代別にみると、環境行動の実践数には明確な差がみられる。18歳～30代では「あまり実行していない」層が54.4%と過半数を占め、「実行している」の合計は43.9%にとどまった。これに対し40～60代では「実行している」の合計が62.5%、70代以上では76.9%となっており、中高年層ほど多様な環境行動を実践している傾向がみられる。



※「実行している」項目数により分類

18項目中

- ・12項目以上 … 「かなり実行している」
- ・6～11項目 … 「ある程度実行している」
- ・1～5項目 … 「あまり実行していない」
- ・0項目 … 「まったく実行していない」



環境のため今後実行を予定している行動

問7 これから実行しようと思うこと、より努力したり協力したりしようと思うことはありますか。

◆環境配慮への意欲は高く、現在の実践が将来の行動意向にも結び付く

集計表44～45ページ

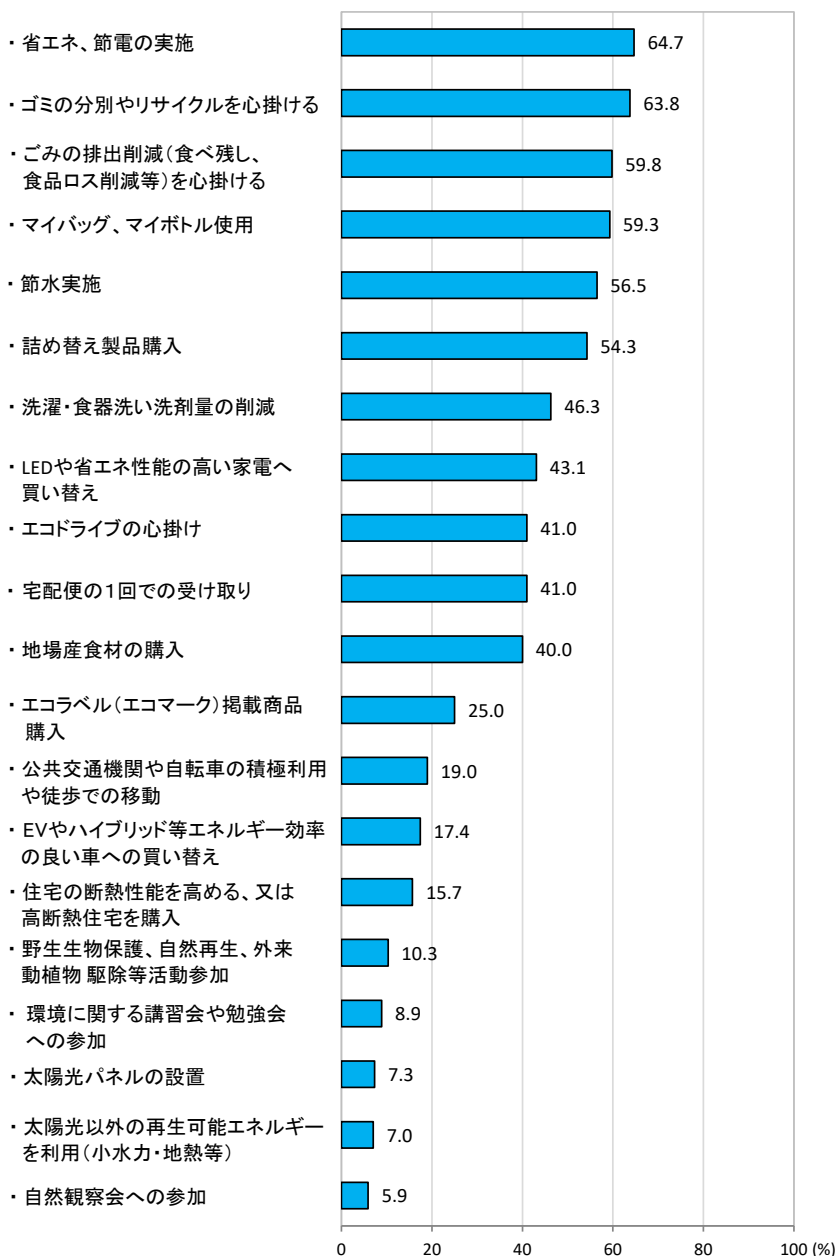
今後実行、あるいは努力したい環境配慮行動について尋ねたところ、「省エネ、節電の実施」が64.7%で最も高く、「ゴミの分別やりサイクル」(63.8%)、「ごみの排出削減」(59.8%)、「マイバッグやマイボトルの使用」(59.3%)、「節水」(56.5%)が続いた。

現在すでに実践率が高い項目が今後の行動予定でも上位を占めており、環境配慮行動をさらに継続・強化しようとする意識がうかがえる。

行動例の予定数を4分類で集計してみると、「あまり実行しようとしていない(1～5項目)」層が41.2%、「ある程度実行しようとしている(6～11項目)」層が40.2%でほぼ並び、「かなり実行しようとしている(12項目以上)」層は16.3%となっ

た。現在の実践状況(問6)では「かなり実行している(12項目以上)」が6.4%だったことと比べると、今後さらに幅広い環境行動に取り組みたいと考える人が多いことが分かる。

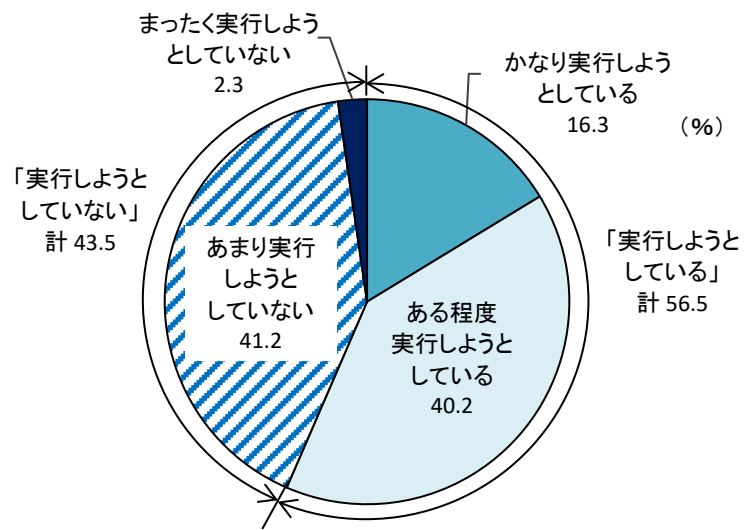
年代別では、18歳～30代で「あまり実行しようとしていない(1～5項目)」層が63.2%と最多で、行動予定の少なさが目立った。一方、40～60代、70代以上では「ある程度実行しようとしている(6～11項目)」層が40.6%、47.8%で最多となっており、中高年層ほど積極的な姿勢が読み取れる。



問7 続き

現在の環境行動数との関係を見ると、極めて強い相関が確認された。問6で「あまり実行していない（1～5項目）」層（206人）のうち、問7で「かなり実行しようとしている（12項目以上）」に該当する人はいなかった。これに対し、問6で「ある程度実行している（6～11項目）」層（327人）のうち18.3%、「かなり実行している（12項目以上）」層（37人）のうち91.9%の人が、問7で「かなり実行しようとしている（12項目以上）」層に該当した。

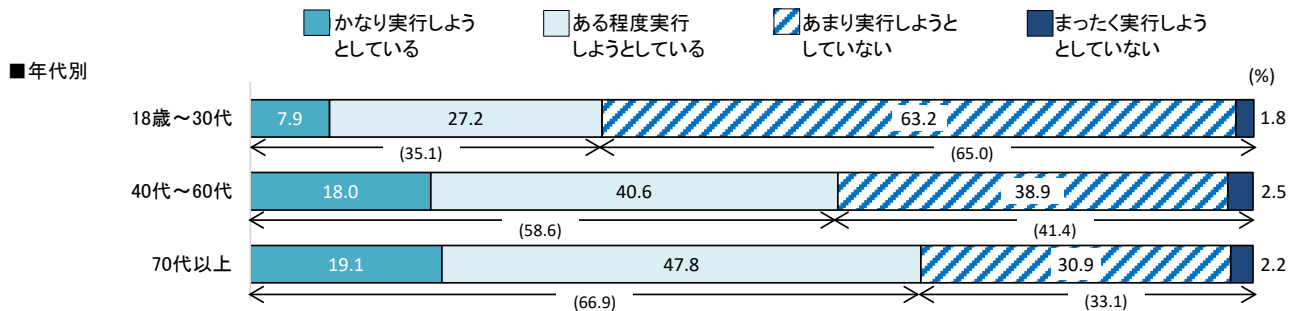
また、問6で「かなり実行している（12項目以上）」層のうち、問7で「省エネ、節電」「ゴミ分別」「ごみ削減」を実践予定に挙げた人はいずれも 97.3%に達し、多くの項目で極めて高い実施意向を示した。



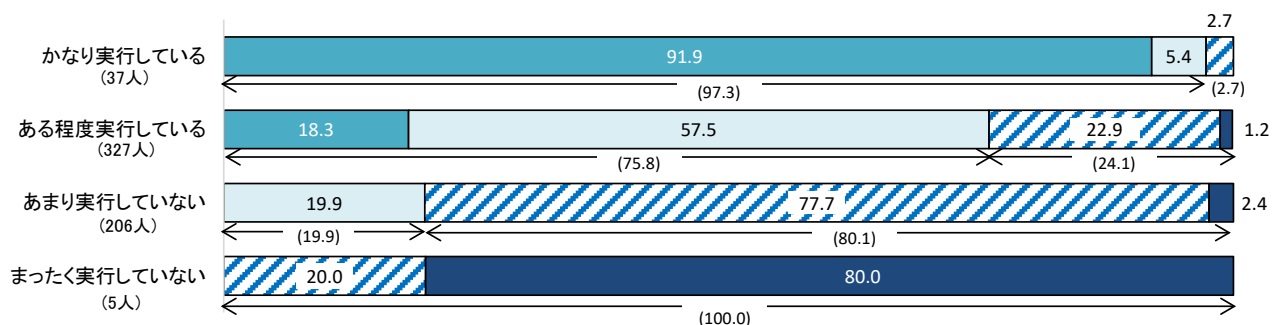
※「実行しようとしている」項目数により分類

20項目中

- ・12項目以上 … 「かなり実行しようとしている」
- ・6～11項目 … 「ある程度実行しようとしている」
- ・1～5項目 … 「あまり実行しようとしていない」
- ・0項目 … 「まったく実行しようとしていない」



■クロス集計 問6「環境のための行動例の数」×問7「環境のための行動例の予定数」



ゼロカーボン社会

問8 あなたは主要な温室効果ガスである二酸化炭素（CO₂）排出量が実質ゼロの社会（ゼロカーボン社会）では、暮らしの利便性はどのようになると思いますか。

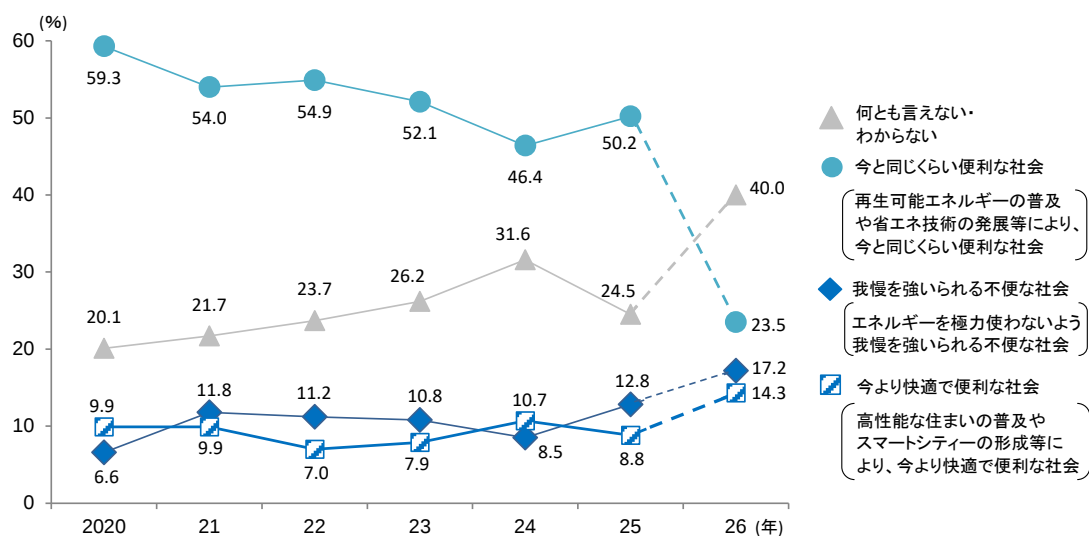
◆「わからない」4割、「今と同程度の便利さ」2割超

集計表46ページ

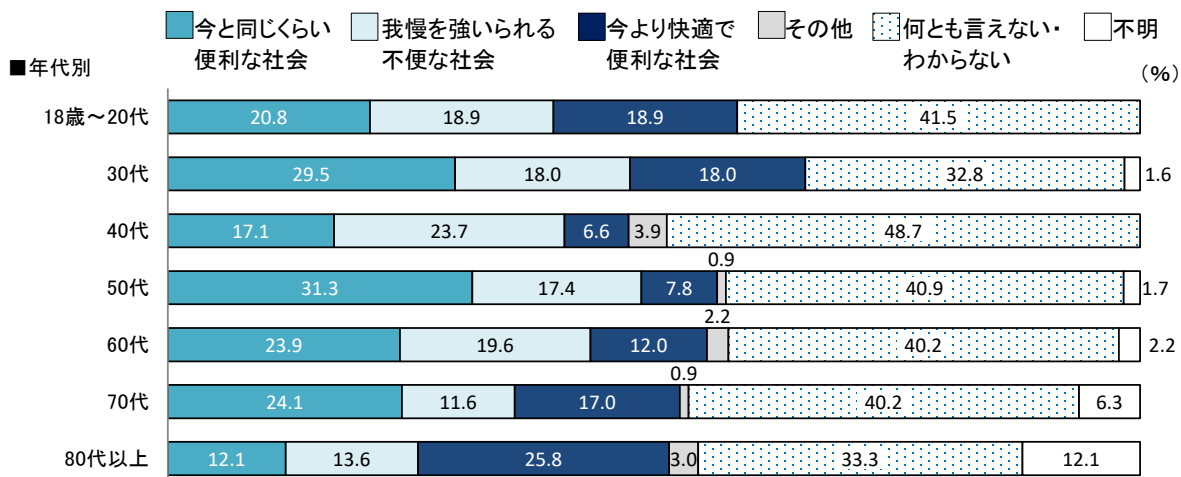
温室効果ガス排出量が実質ゼロとなるゼロカーボン社会について、暮らしの利便性がどうなると思うか聞いたところ、「何とも言えない・わからない」が前年調査と比べて15.5ポイント上昇し、40.0%で最も高い結果となった。具体的な見通しを持っていない層が4割に増えた一方、「今と同じくらい便利な社会」は26.7ポイント下降し、23.5%と半減した。

「我慢を強いられる不便な社会」は17.2%（前回調査比4.4ポイント上昇）、「今より快適で便利な社会」は14.3%（同5.5ポイント上昇）だった。

今回は、過去の調査とは傾向が大きく異なる結果となった。これは設問や選択肢を今回変更したことが一つの要因とみられ、単純には比較できない結果となった。



年代別では、いずれの年代も「何とも言えない・わからない」が最多となり、ゼロカーボン社会の具体像について判断を保留する層が目立った。続いて「今と同じくらい便利な社会」が多く、80代以上では「今より快適で便利な社会」（25.8%）、40代では「我慢を強いられる不便な社会」（23.7%）が2番手となり、利便性の評価にやや差が出た。



どの発電方式を選ぶか

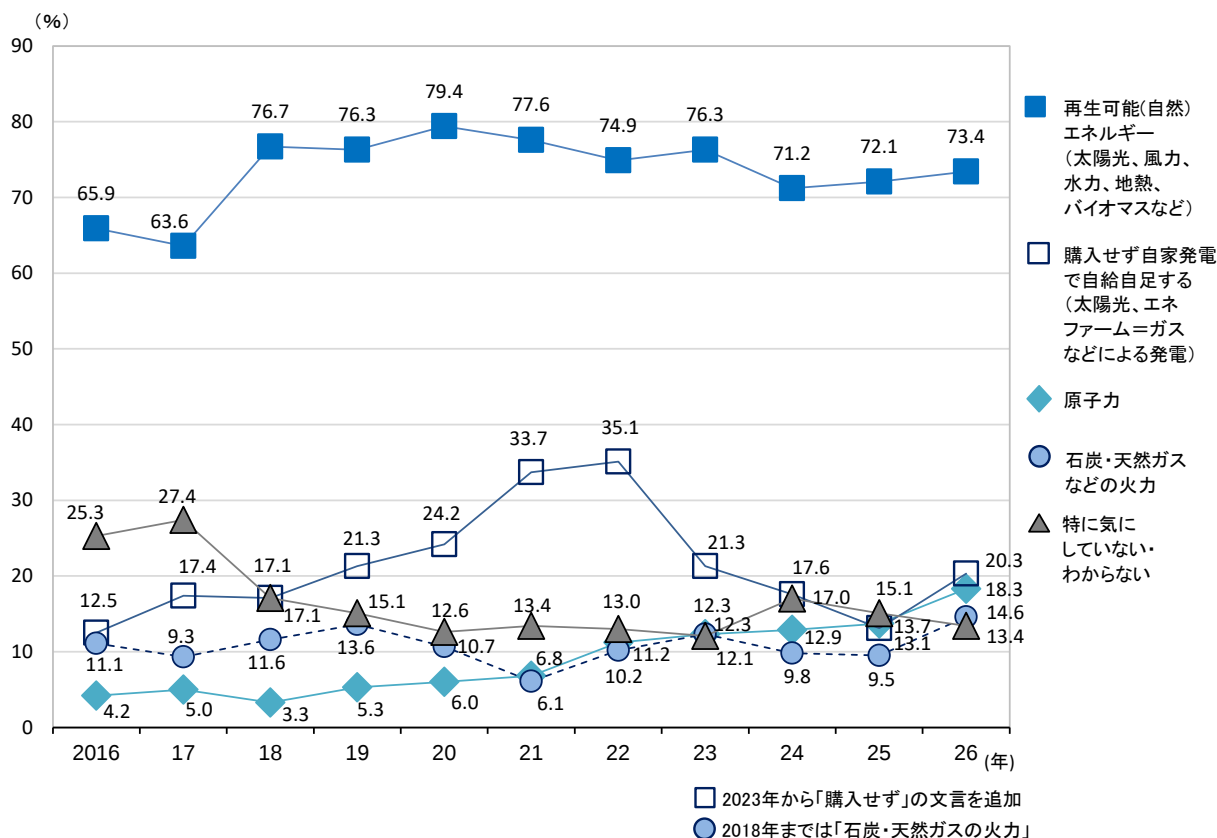
問9 現在は利用する電力会社を選べますが、発電方式で選択するとしたら、どの発電方式が望ましいと思いますか。次の中から、あてはまるものを全て挙げてください。

◆「再生可能エネルギー」7割超で突出

集計表47ページ

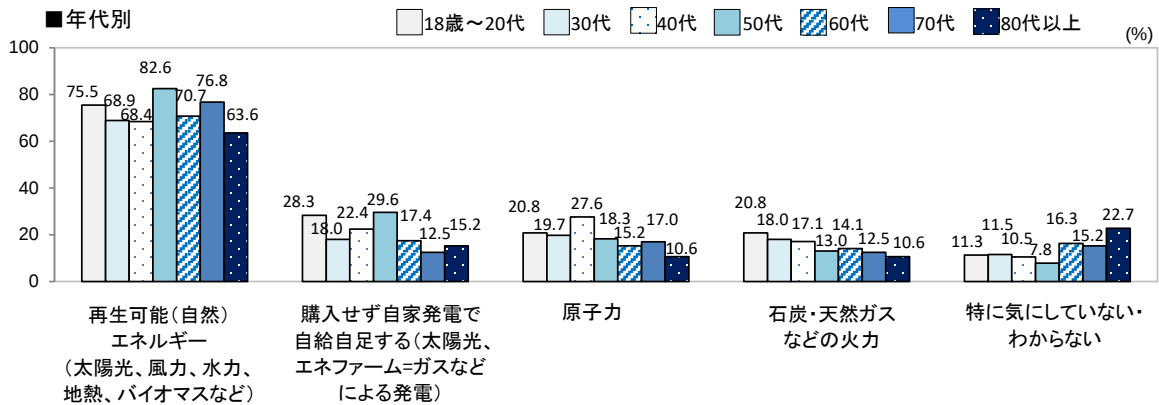
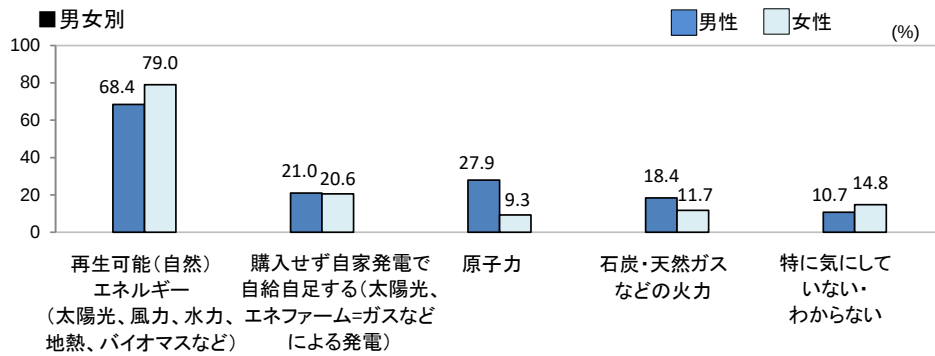
利用する電力を発電方式で選ぶとした場合、望ましい発電方式を複数回答で聞いたところ、「再生可能（自然）エネルギー」が73.4%（前年調査比1.3ポイント上昇）で突出して高かった。

次いで、「購入せず自家発電で自給自足する」が20.3%（同7.2ポイント上昇）で2番手に浮上し、「原子力」は18.3%（同4.6ポイント上昇）、「石炭・天然ガスなどの火力」が14.6%（同5.1ポイント上昇）となった。「特に気にしていない・わからない」は13.4%（同1.7ポイント下降）だった。



男女別では、「再生可能エネルギー」は男性68.4%に対し女性79.0%で、女性が10.6ポイント高かった。一方、「原子力」は男性27.9%、女性9.3%で、男性が18.6ポイント上回った。

年代別では、「再生可能エネルギー」は50代が82.6%で最も高く、80代以上は63.6%だった。「特に気にしていない・わからない」は80代以上で22.7%と比較的高く、年代による違いもみられた。

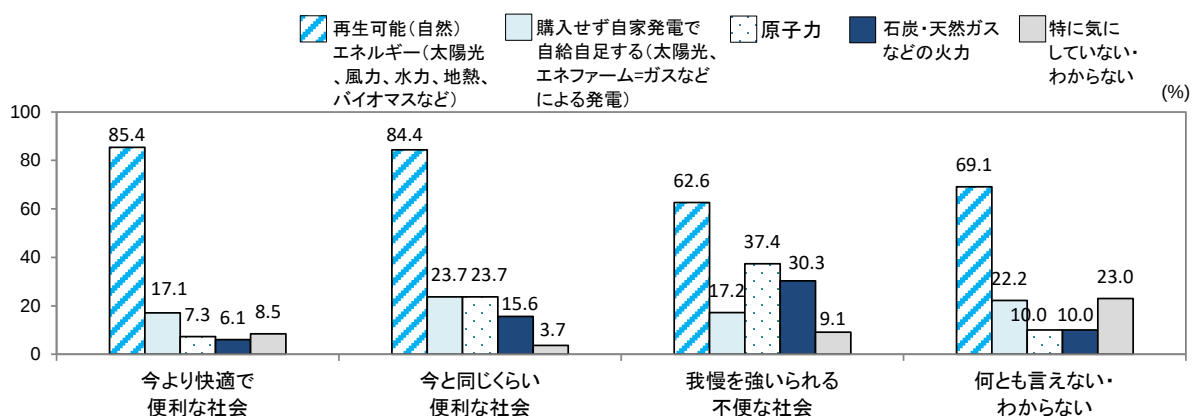


問8（ゼロカーボン社会）とのクロス集計では、ゼロカーボン社会に前向きなイメージを持つ層ほど、再生可能エネルギーを支持する傾向がみられた。「今より快適で便利な社会」と考える層では、「再生可能（自然）エネルギー」を選んだ割合が85.4%、「今と同じくらい便利な社会」と考える層でも84.4%と高かった。一方、「我慢を強いられる不便な社会」と考える層では62.6%にとどまった。

また、「原子力」を選んだ割合は、「今より快適で便利な社会」と考える層では7.3%だったのに対し、「我慢を強いられる不便な社会」では37.4%と大きく上昇した。同様に、「石炭・天然ガスなどの火力」も6.1%に対して30.3%となっており、ゼロカーボン社会に不便さを感じる層ほど、安定供給を重視して原子力や火力を支持する傾向がうかがえた。

一方、「何とも言えない」と回答した層では、「特に気にしていない・わからない」が23.0%と比較的高く、ゼロカーボン社会のイメージが定まっていない層では、発電方式に対する意識も明確ではない傾向がみられた。

■クロス集計 問8「ゼロカーボン社会」×問9「どの発電方式を選ぶか」



太陽光発電の導入

問 10 太陽光発電は、クリーンなエネルギーで環境にやさしいだけでなく、その電気を自宅で使うことで電気代を削減したり、災害にも備えることができます。あなたのお宅では、太陽光発電を導入していますか。

◆導入は2割、過半数は「導入予定なし」

集計表48ページ

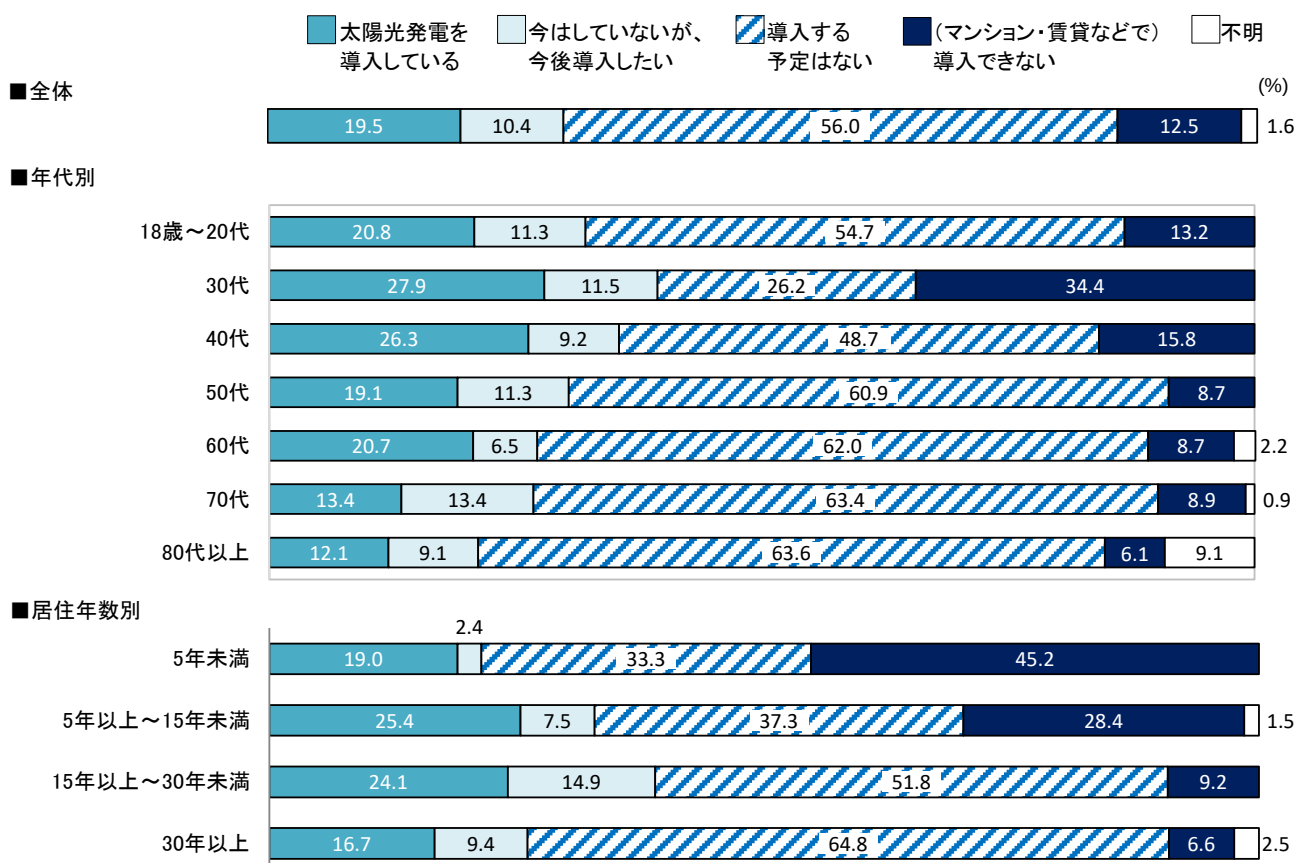
太陽光発電の導入状況について聞いたところ、「導入する予定はない」が56.0%で過半数を占めた。

一方、「太陽光発電を導入している」は19.5%、「今はしていないが今後導入したい」は10.4%だった。また、「(マンション・賃貸などで) 導入できない」は12.5%となった。

既に導入している世帯は2割程度にとどまる一方、導入意向を持つ層も1割存在した。しかし、現時点では導入予定がないとする回答が半数を超えており、太陽光発電の普及にはなお課題が残る状況を示唆している。

年代別では、「太陽光発電を導入している」は30代が27.9%、40代が26.3%で比較的高かった。一方、70代では13.4%、80代以上では12.1%にとどまった。

居住年数別でみると、「30年以上」の64.8%、「15年以上～30年未満」の51.8%が「導入する予定はない」と回答し、いずれも過半数を占めた。「5年以上～15年未満」も37.3%で高かった。一方、「5年未満」では「(マンション・賃貸などで) 導入できない」が45.2%で最多となり、2番手も「導入する予定はない」(33.3%)だった。



太陽光発電導入の理由

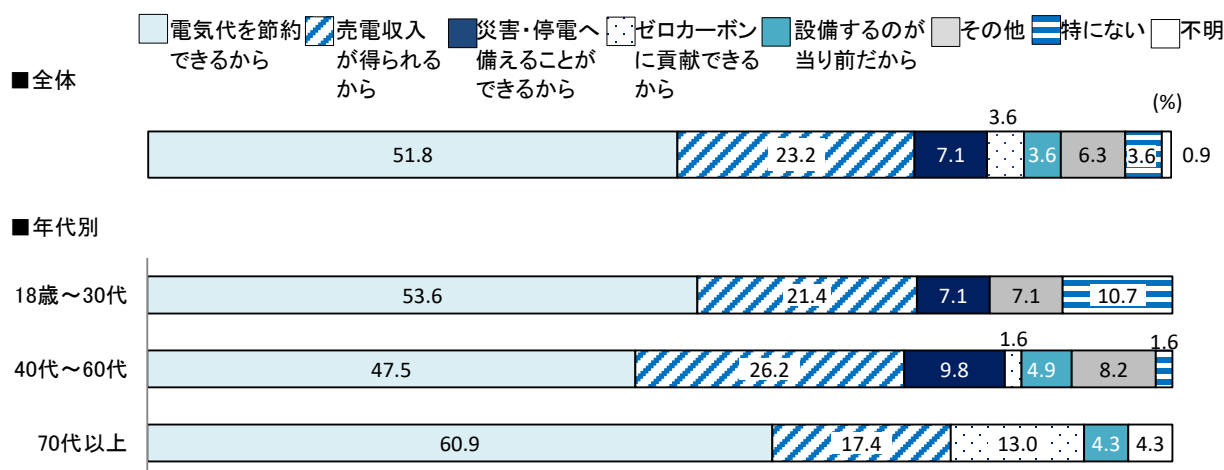
問 11 (問 10 で「太陽光発電を導入している」とお答えの方にお尋ねします)
太陽光発電の導入を決めた理由は何ですか。

◆「電気代節約」が5割超で最多

集計表49ページ

問 10 で「太陽光発電を導入している」と回答した 112 人に導入理由を聞いたところ、「電気代を節約できるから」が 51.8%で過半数を占め、最も多かった。次いで「売電収入が得られるから」が 23.2%となり、経済的なメリットを重視する回答が上位を占めた。一方、「災害・停電へ備えることができるから」は 7.1%、「ゼロカーボンに貢献できるから」は 3.6%にとどまった。

年代別でみると、「電気代を節約できるから」は 70 代以上で 60.9%と特に高く、各年代でもおおむね半数前後を占めた。「売電収入が得られるから」は 40～60 代で 26.2%と他年代に比較してやや高かった。環境面よりも、家計負担の軽減や売電収入など、経済的な効果が導入の主な動機となっていることが分かる。



太陽光発電を導入しない理由

問 12 (問 10 で「導入する予定はない」とお答えの方にお尋ねします)
あなたが太陽光発電を導入しない理由として一番大きなものを選択してください。

◆「設置費用が高い」が最多

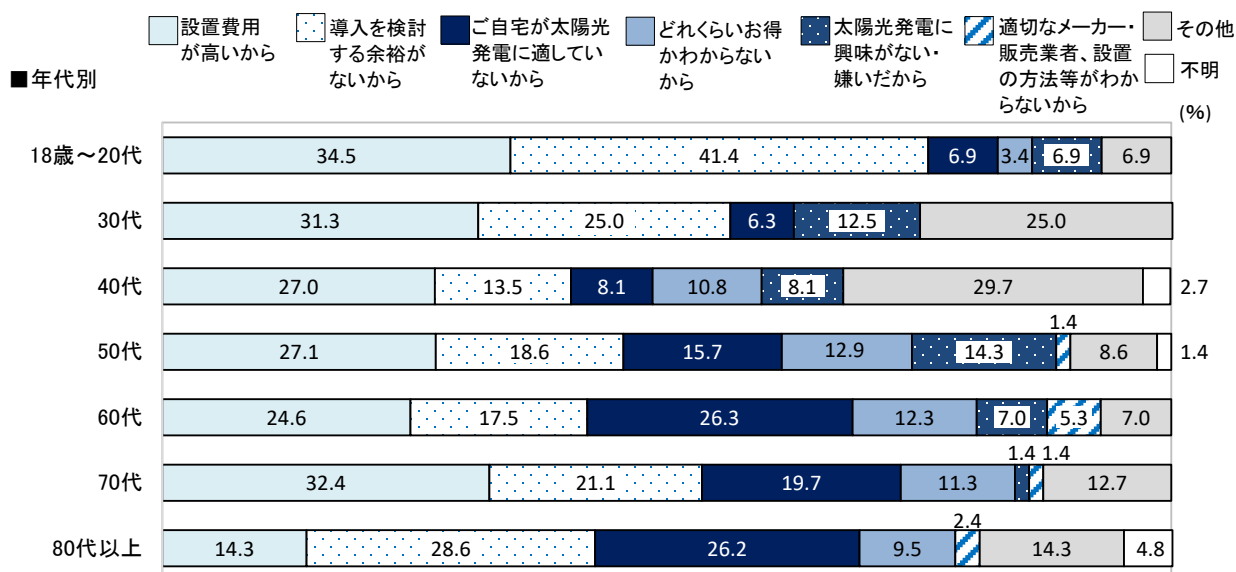
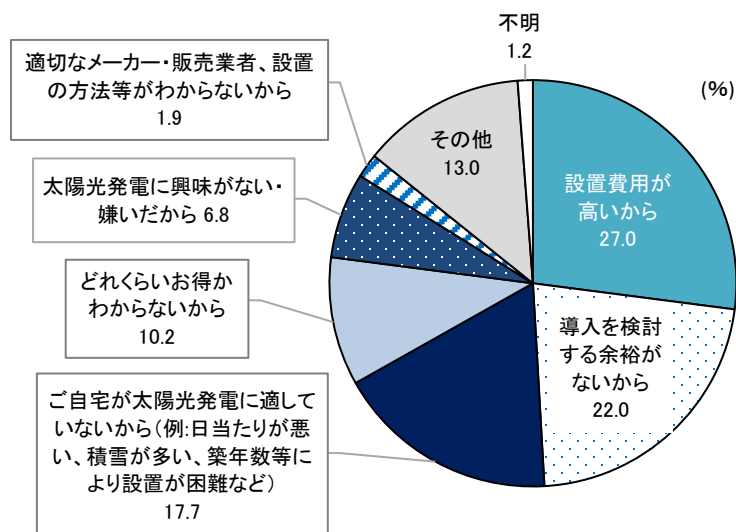
集計表50ページ

問 10 で「導入する予定はない」と回答した 322 人に理由を聞いたところ、「設置費用が高いから」が 27.0%で最多となった。次いで「導入を検討する余裕がないから」が 22.0%、「自宅が太陽光発電に適していないから」が 17.7%で続いた。「どれくらいお得かわからないから」は 10.2%だった。

年代別でみると、18 歳～20 代では「導入を検討する余裕がないから」が 41.4%と突出して

高く、若年層では費用負担や生活上の優先順位が障壁となっている様子がみられた。一方、60 代と 80 代以上では「自宅が太陽光発電に適していないから」が 2 割を超え、住宅条件や立地環境を理由に挙げる割合が比較的高かった。

太陽光発電の普及には、初期費用負担の軽減に加え、導入効果や住宅条件に応じた情報提供も課題となっていることが認められる。



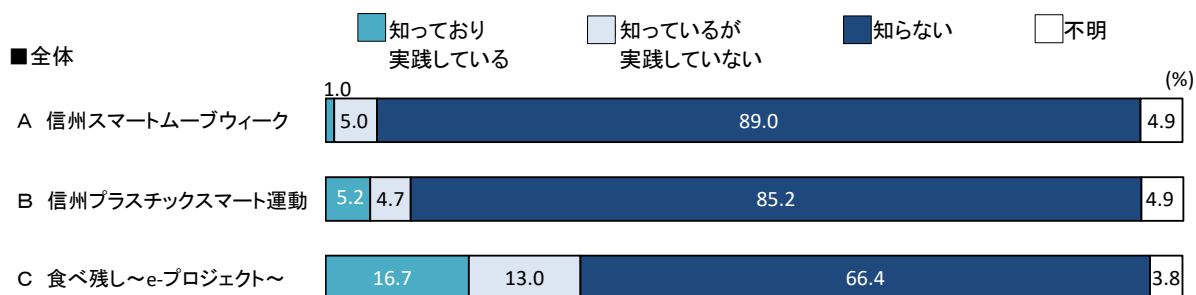
県環境プロジェクトの認知度

問 13 長野県で実施している以下のA、B、Cのプロジェクトについて①～③の番号に○印を付けてください。

- A 信州スマートムーブウィーク
- B 信州プラスチックスマート運動
- C 食べ残し～eプロジェクト～

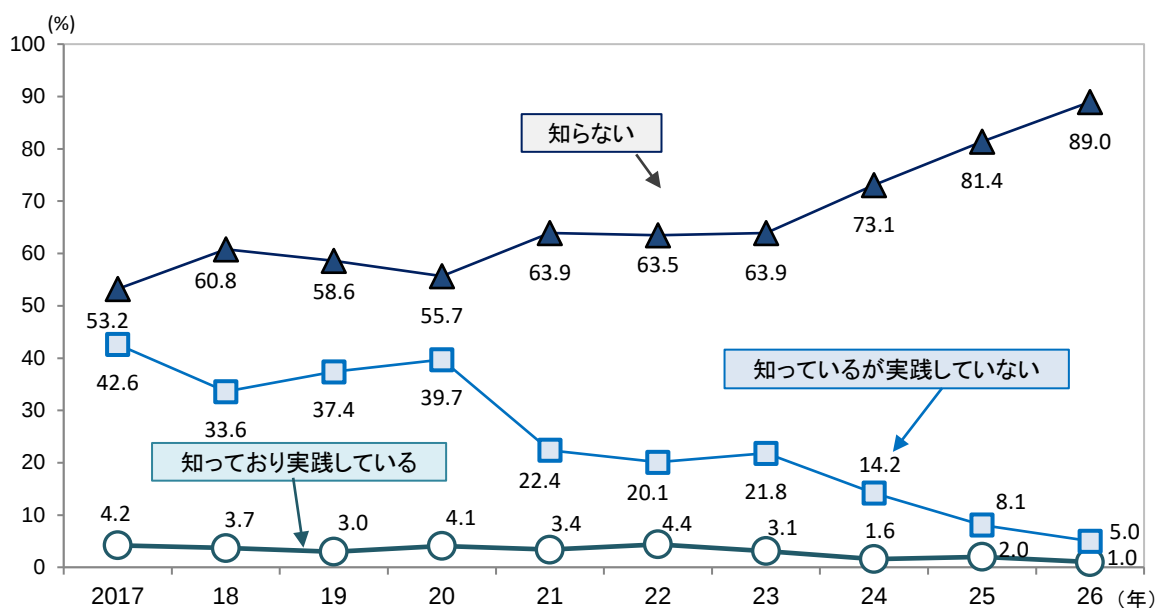
◆「食べ残し～eプロジェクト～」が比較的浸透

集計表51～52ページ



長野県が実施する環境関連プロジェクトの認知度を聞いたところ、「食べ残し～eプロジェクト～」は「知っており実践している」が16.7%、「知っているが実践していない」が13.0%で、両者を合わせた認知層は約3割となった。一方、「信州プラスチックスマート運動」の認知層は9.9%、「信州スマートムーブウィーク」は6.0%にとどまった。

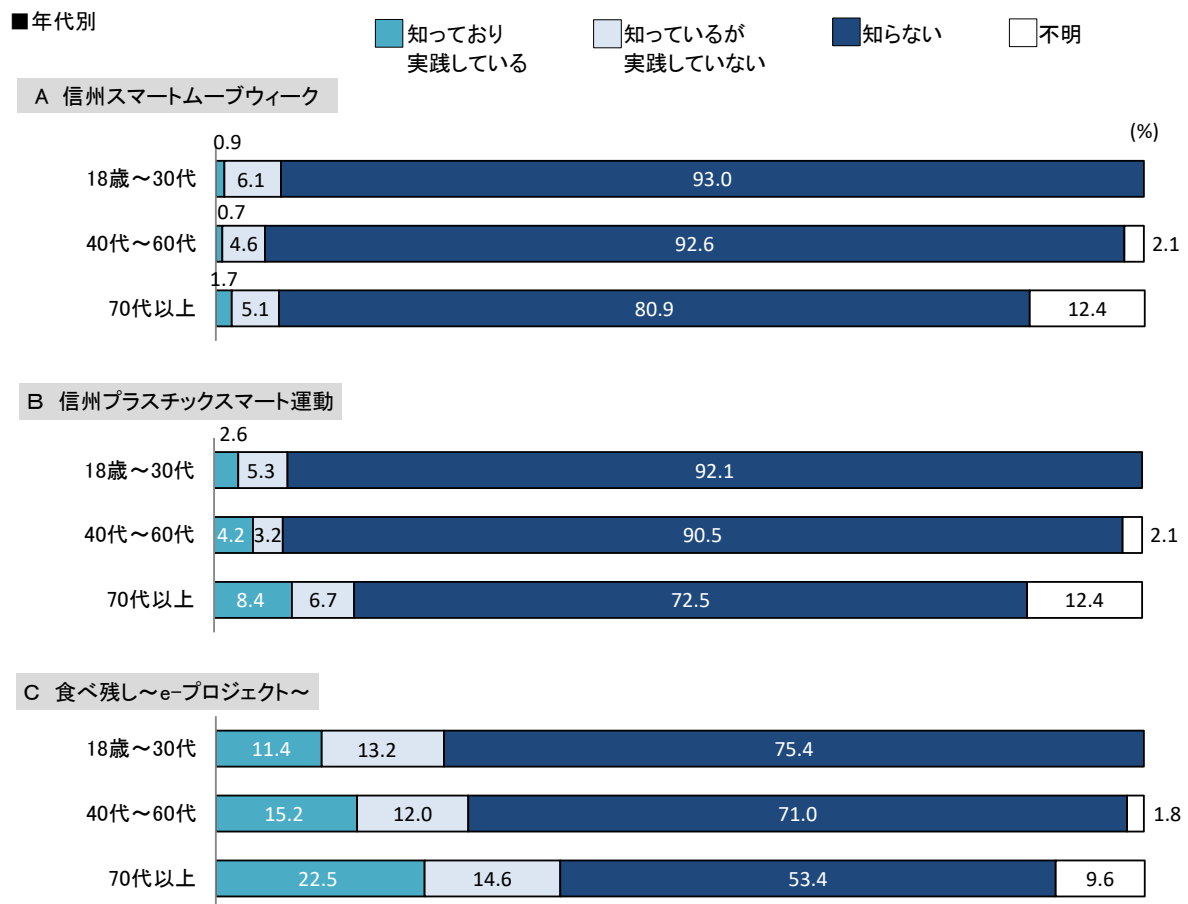
【A 信州スマートムーブウィーク 認知度推移】



※2020年までの質問は「『県下一斉ノーマイカー通勤ウィーク』を知っていますか」

年代別でみると、「食べ残し～e-プロジェクト～」は70代以上で認知度が比較的高く、「知っており実践している」が2割を超えた。一方、「信州スマートムーブウィーク」は全ての年代で「知らない」が8～9割を占めた。

県の環境施策の中では食品ロス削減に関する取り組みが比較的浸透している一方、移動やプラスチック削減に関するプロジェクトは認知度向上が課題となっている。



通勤手段

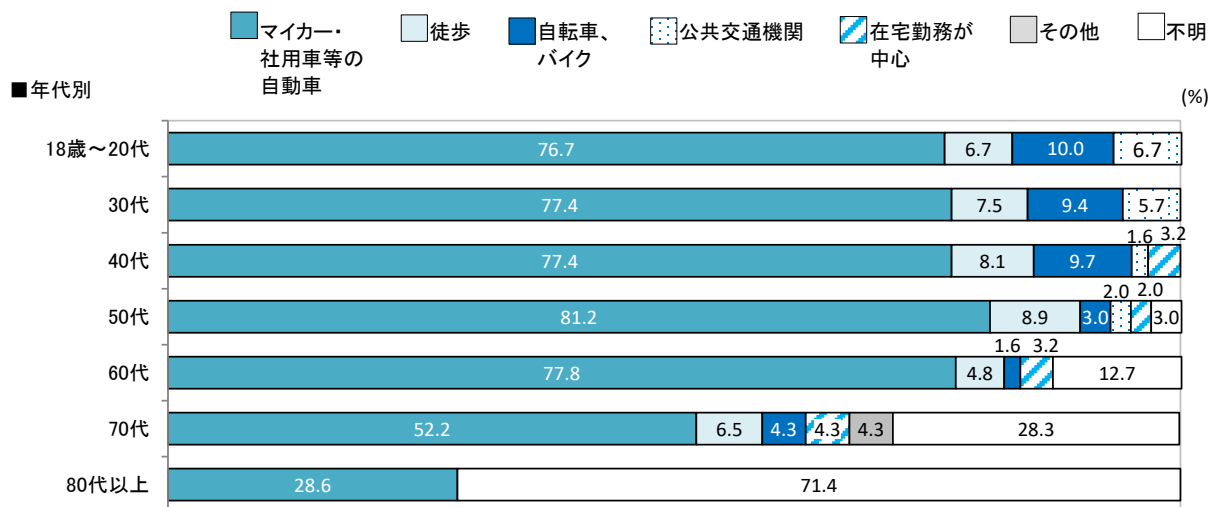
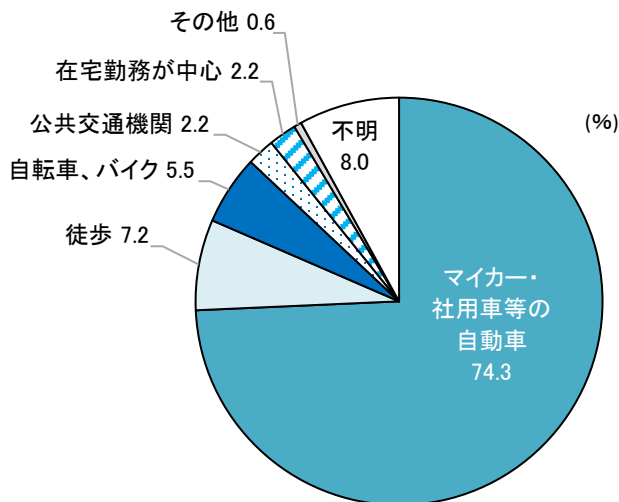
問 14 （お勤めをされている方にお尋ねします）あなたは、通勤の際、主に何を利用して
いますか。

◆通勤は「マイカー」が7割超

集計表53ページ

通勤手段は「マイカー・社用車等の自動車」が74.3%と圧倒的に多く、次いで「徒歩」7.2%、「自転車、バイク」5.5%、「公共交通機関」2.2%となった。長野県では通勤における自動車依存が極めて高く、脱炭素化を進める上でも移動分野が重要な課題であるといえる。

年代別では、現役世代を中心に自動車利用が高く、50代では81.2%を占めた。一方、70代では52.2%まで低下しており、就業形態や生活環境の違いが反映されているものとみられる。



問 8（ゼロカーボン社会）とのクロス集計を見ると、いずれの層でも自動車通勤が7割前後を占めており、ゼロカーボン社会に対する認識の違いによって現在の交通手段が大きく異なる状況はみられなかった。しかし細部を見ると特徴もみられる。

「今より快適で便利な社会」と考える層では、自動車利用が73.2%である一方、「徒歩」が12.2%、「自転車、バイク」が7.3%となっており、徒歩・自転車等の利用割合が比較的高い。これに対し、「我慢を強いられる不便な社会」と考える層では、自動車利用は69.6%とやや低いものの、「自転車、バイク」が11.6%と最も高くなっている。

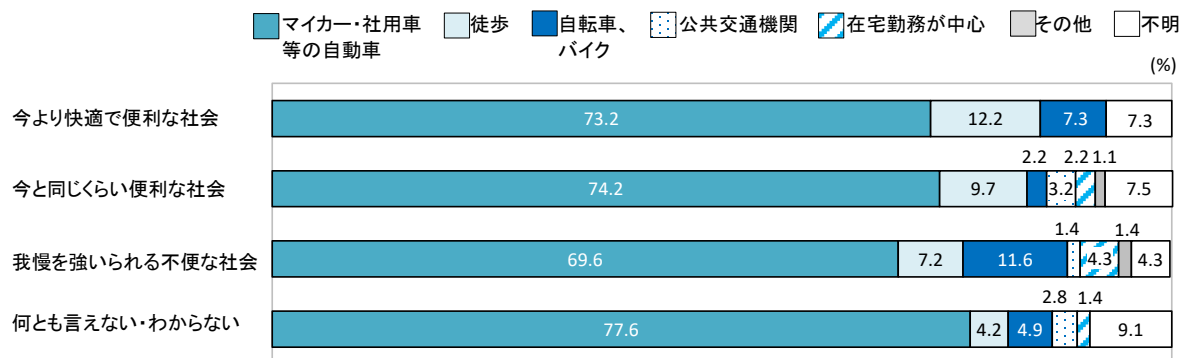
また、「今と同じくらい便利な社会」と考える層では、自動車利用が74.2%で全体平均とほぼ同じである一方、「徒歩」が9.7%となるなど、自動車以外の手段も一定程度見られた。

「何とも言えない・わからない」とする層では自動車利用が77.6%と4区分中で最も高く、徒歩4.2%、自転車・バイク4.9%にとどまった。

問 14 続き

この結果から、ゼロカーボン社会に対する期待や不安の違いはあるものの、現状では通勤交通手段そのものに大きな差はみられない。ただし、ゼロカーボン社会が便利か不便か明確に捉えている層ほど、徒歩や自転車など比較的環境負荷の小さい移動手段を利用している傾向がうかがえる。

■クロス集計 問8「ゼロカーボン社会」×問14「通勤手段」



E V 購入の懸念事項

問 15 電気自動車（E V）の購入を検討する場合、どのような懸念事項がありますか。
次の中からあてはまるもの全てに○印を付けてください。

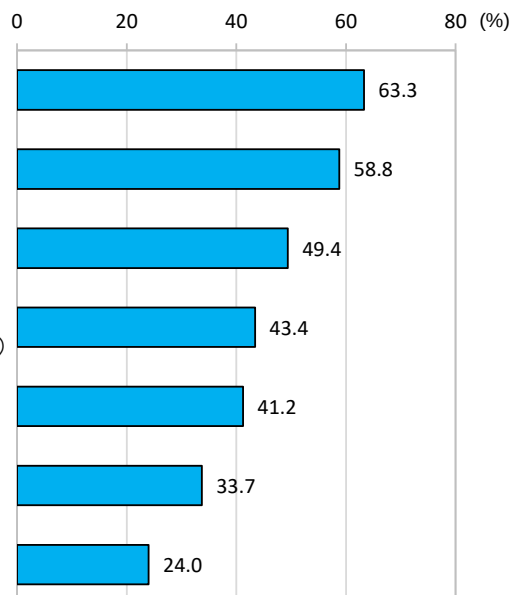
◆「価格」「充電環境」が大きな壁

E V購入時の懸念事項として最も多かったのは「購入価格が高い」で63.3%、次いで「外出先で充電できる場所が少ない」58.8%、「積雪時や山間部での走行に不安がある」49.4%、「充電に時間がかかる」43.4%、「満充電で走れる距離が短い」41.2%の順となった。

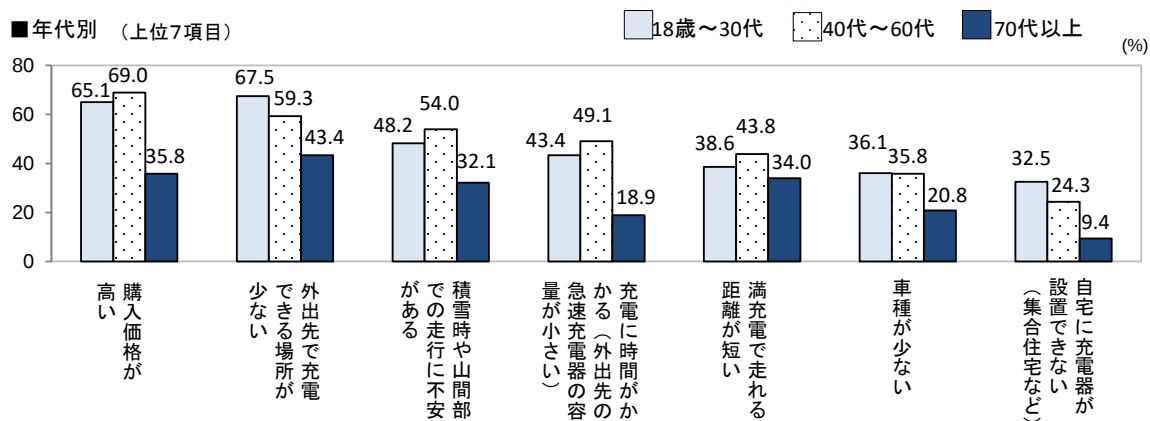
価格面への不安が最も大きいものの、充電インフラや航続距離、さらには長野県特有の積雪地・中山間地域での利用環境に対する不安も根強いことがうかがえる。

年代別では、40代～60代で「購入価格が高い」が69.0%、「積雪時や山間部での走行に不安」が54.0%、「充電に時間がかかる」が49.1%と高く、実際に日常的に自動車を利用する世代ほど現実的な課題を強く意識している。一方、18歳～30代では「外出先で充電できる場所が少ない」が67.5%と高く、インフラ整備への関心が特に強い。

- ・ 購入価格が高い
- ・ 外出先で充電できる場所が少ない
- ・ 積雪時や山間部での走行に不安がある
- ・ 充電に時間がかかる（外出先の急速充電器の容量が小さい）
- ・ 満充電で走れる距離が短い
- ・ 車種が少ない
- ・ 自宅に充電器が設置できない（集合住宅など）



集計表54ページ



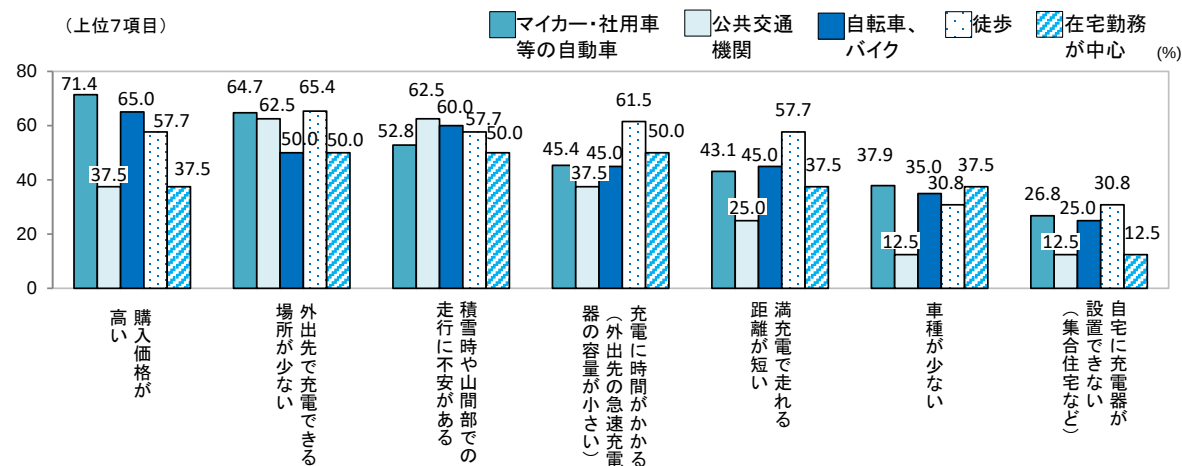
問14（通勤手段）とのクロス集計を見ると、通勤手段によってEVに対する懸念の内容に違いがみられる。最も割合の高い「マイカー・社用車等の自動車」利用者では、「購入価格が高い」が71.4%、「外出先で充電できる場所が少ない」が64.7%、「積雪時や山間部での走行に不安」が52.8%、「充電に時間がかかる」が45.4%となっており、全体平均を上回る項目が多い。日常的に自動車を利用している人ほど、EV導入時の課題を具体的かつ現実的に認識していることがうかがえる。

これに対し、「徒歩」通勤者では、「外出先で充電できる場所が少ない」が65.4%、「充電に時間がかかる」が61.5%、「満充電で走れる距離が短い」が57.7%となっており、価格面（57.7%）と同等以上に性能や利便性への不安が目立つ。

「自転車、バイク」利用者では、「購入価格が高い」が65.0%、「積雪時や山間部での走行に不安」が60.0%で比較的高かった。

この結果から、EV普及の最大の障壁は価格であるものの、実際に自動車を利用している層では、価格だけでなく充電インフラや冬季・山間地での利用性能など、実用面への不安が大きいことが読み取れる。特に長野県では通勤手段の約4分の3を自動車が占めていることから、EV普及には購入補助だけでなく、充電設備の拡充などが重要な課題であることが読み取れる。

■クロス集計 問14「通勤手段」×問15「EV購入の懸念事項」



ごみの量

問 16 長野県民 1 人当たりの 1 日のごみ（一般廃棄物）排出量は、令和 5 年度実績で 770 g と全国トップ水準（4 位）です。あなた自身の生活の中から出るごみの量についてどう思いますか。

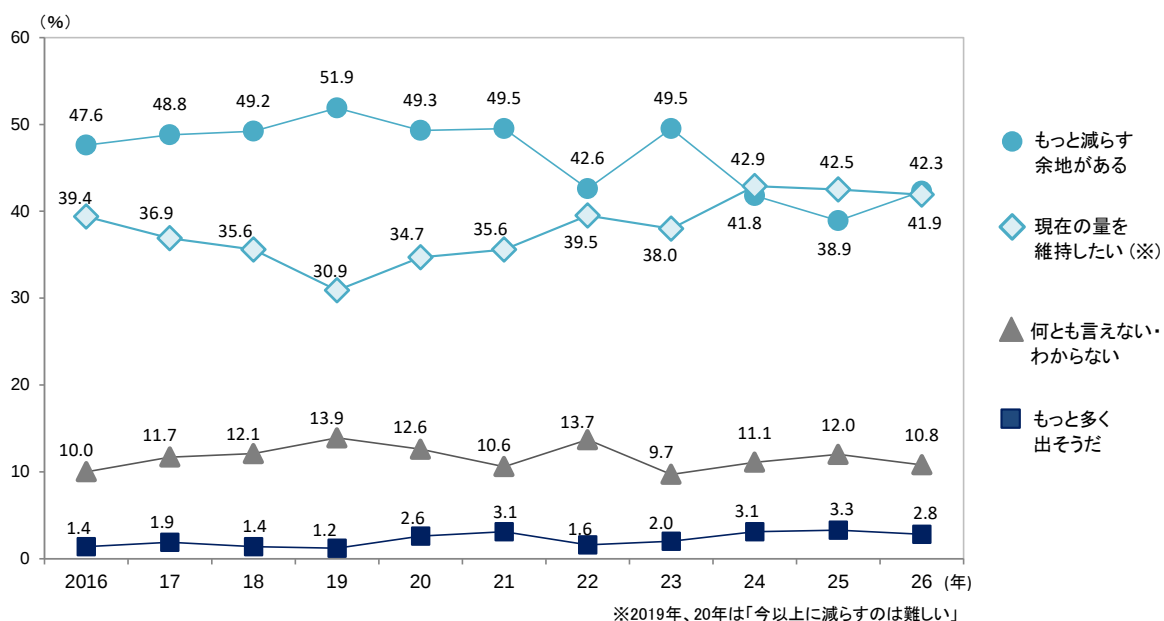
◆ごみ削減意識は若い世代ほど高い傾向

集計表55ページ

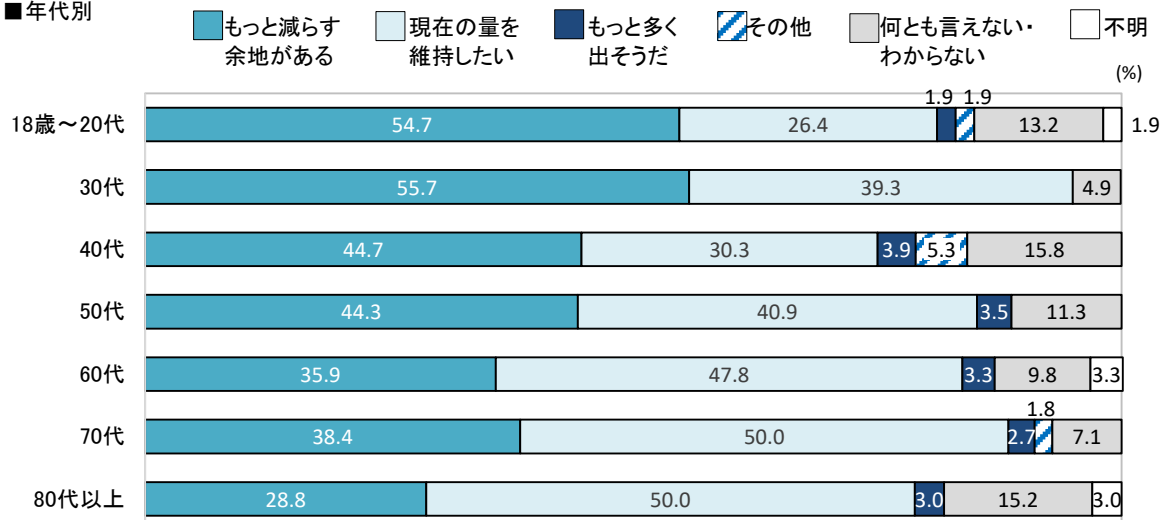
長野県民自身のごみ排出量に対する意識を見ると、「もっと減らす余地がある」が前年調査比 3.4 ポイント上昇し、42.3%で3年ぶりに最多となった。「現在の量を維持したい」が41.9%（同 0.6 ポイント下降）で2番手に。「何とも言えない・わからない」は10.8%、「もっと多く出そうだ」は2.8%でほぼ横ばいだった。

年代別に見ると、18 歳～20 代、30 代では「もっと減らす余地がある」が 54.7%、55.7%と半数を超え、若い世代ほどごみ削減への意識が高い傾向がみられた。一方、70 代、80 代以上では「現在の量を維持したい」が 50.0%となり、現状維持志向が比較的強かった。

県民の間では、ごみ削減の必要性に対する認識が広く共有されている一方、若年層と高齢層ではごみ問題に対する受け止め方に違いがみられる結果となった。



■年代別



プラごみ 減らすために

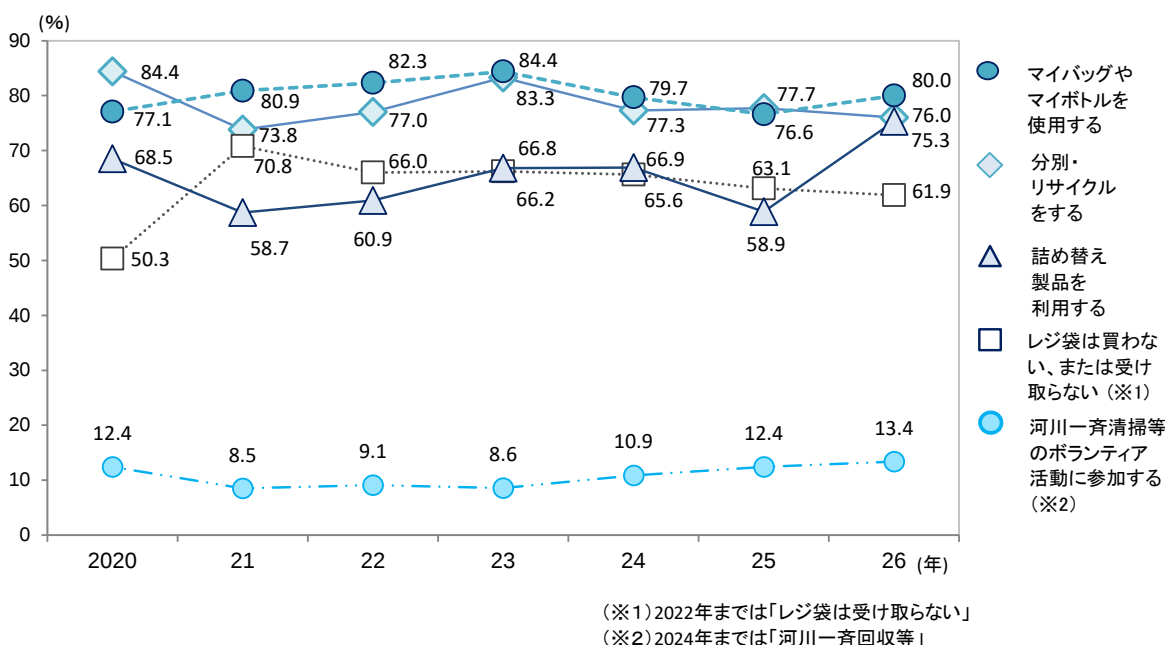
問 17 容器、袋など、プラスチックごみによる、海洋汚染などが問題化しています。プラスチックごみを減らすために、あなたが日ごろ、心掛けていることはありますか。次の中から、あてはまるものを全て挙げてください。

◆身近なプラスチックごみ対策が定着

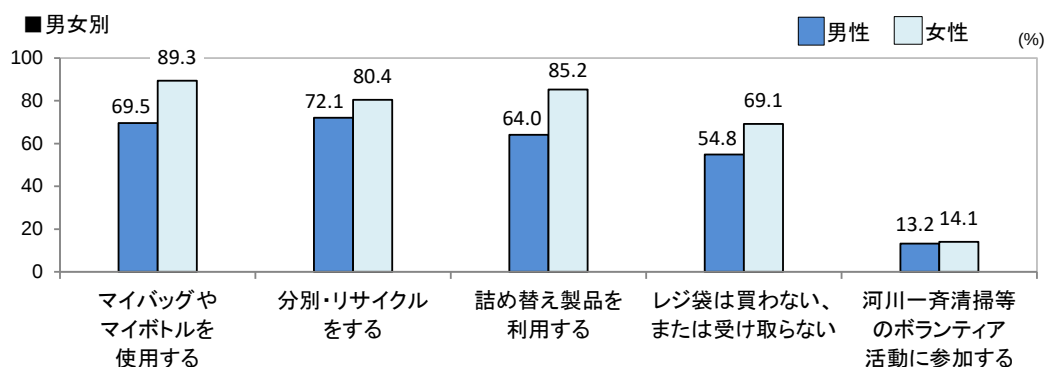
集計表56ページ

プラスチックごみ削減のために日ごろ心掛けていることを尋ねたところ、「マイバッグやマイボトルを使用する」が80.0%（前年調査比3.4ポイント上昇）で2年ぶりにトップになった。「分別・リサイクルをする」（76.0%）がほぼ横ばいで2番手に後退。続いて前年調査比16.4ポイントも上昇した「詰め替え製品を利用する」（75.3%）が3番手に浮上した。

さらに、「レジ袋は買わない、または受け取らない」（61.9%）、「河川一斉清掃等のボランティア活動に参加する」（13.4%）が続いた。一方、「特にない」は2.8%にとどまり、多くの県民が何らかの形でプラスチックごみ削減に取り組んでいることがうかがえる。

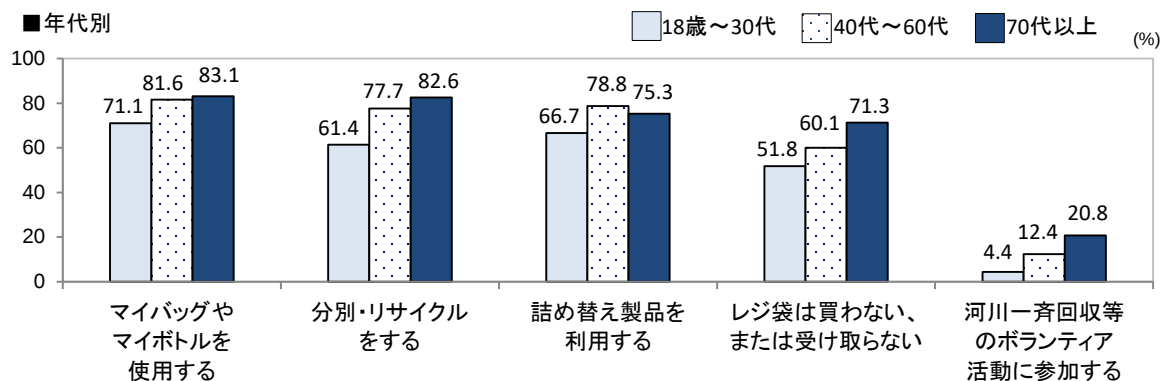


男女別では、ほぼすべての項目で女性の実践率が男性を上回った。「マイバッグやマイボトルを使用する」は男性69.5%に対し女性89.3%、「詰め替え製品を利用する」は男性64.0%に対し女性85.2%、「レジ袋は買わない、または受け取らない」も男性54.8%に対し女性69.1%となっており、日常生活の中での環境配慮行動は女性で特に浸透している。



問 17 続き

年代別では、18 歳～30 代で「マイバッグやマイボトルを使用する」が 71.1%、「分別・リサイクルをする」が 61.4%であるのに対し、70 代以上ではそれぞれ 83.1%、82.6%となり、高齢層ほど実践率が高い傾向がみられる。

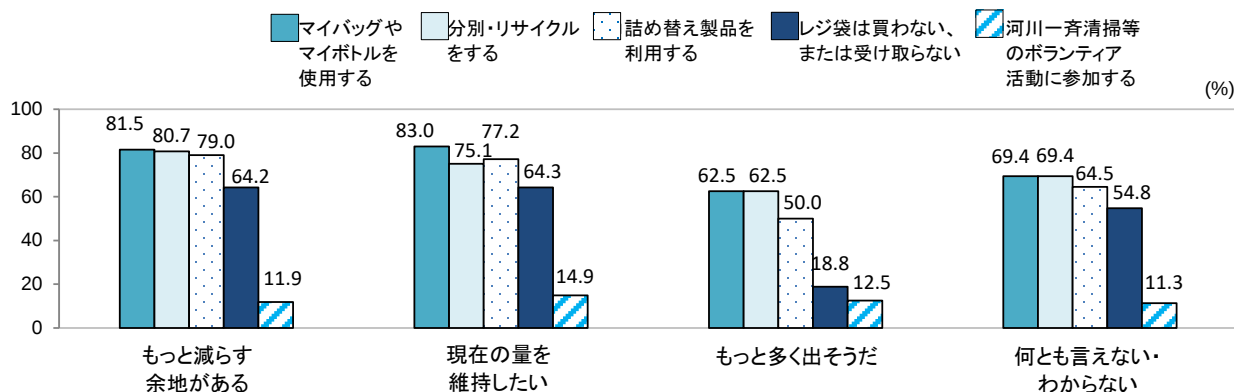


問 16（ごみの量）とのクロス集計では、ごみ削減への意識と実際の行動との関係が確認できる。自身のごみ排出量について「もっと減らす余地がある」と回答した層では、「マイバッグやマイボトルを使用する」が 81.5%、「分別・リサイクルをする」が 80.7%、「詰め替え製品を利用する」が 79.0%に達した。また、「現在の量を維持したい」とする層でも、それぞれ 83.0%、75.1%、77.2%と高い割合となっている。

一方、「もっと多く出そうだ」と回答した層では、「マイバッグやマイボトルを使用する」が 62.5%、「詰め替え製品を利用する」が 50.0%、「レジ袋は買わない、または受け取らない」が 18.8%にとどまった。また、「何とも言えない・わからない」とした層でも、「マイバッグやマイボトルを使用する」は 69.4%、「詰め替え製品を利用する」は 64.5%で、削減意識が明確な層との差がみられる。

この結果から、自身のごみ排出量を意識し、削減の必要性を感じている人ほど、マイバッグ利用や分別・リサイクル、詰め替え製品の活用など、具体的な行動の実践に結びついていることがうかがえる。

■クロス集計 問16「ごみの量」×問17「プラごみ減らすために」



エシカル消費

問 18 あなたは、次に挙げるエシカル消費(※)につながる行動について、実践しているものはありますか。あてはまるものを全て挙げてください。

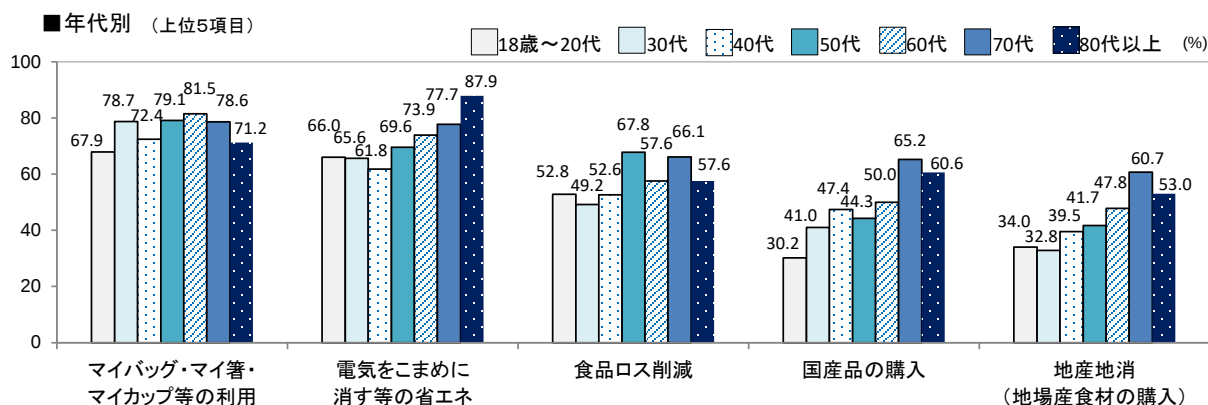
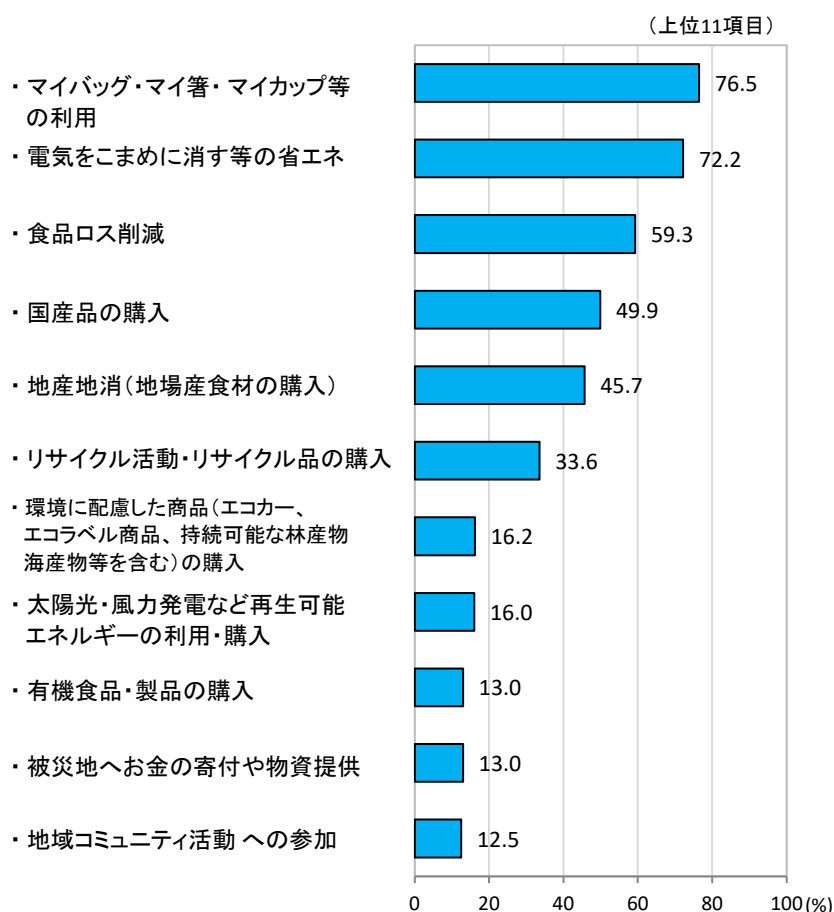
◆エシカル消費は「身近な行動」から広がる

集計表57～58ページ

エシカル消費につながる行動としては、「マイバッグ・マイ箸・マイカップ等の利用」が76.5%で最も高く、「電気をこまめに消す等の省エネ」72.2%、「食品ロス削減」59.3%が続いた。また、「国産品の購入」49.9%、「地産地消」45.7%も比較的高い割合となった。

一方、「環境に配慮した商品の購入」16.2%、「再生可能エネルギーの利用・購入」16.0%、「有機食品・製品の購入」13.0%などは2割未満にとどまった。

年代別にみると、若年層ではマイバッグ利用や省エネ、食品ロス削減が中心であるのに対し、高齢層ではそれらに加え、国産品の購入、地産地消など幅広い取り組みが実践されている状況が浮き彫りとなった。



※ エシカル消費 地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のこと

環境問題の用語 知っていますか

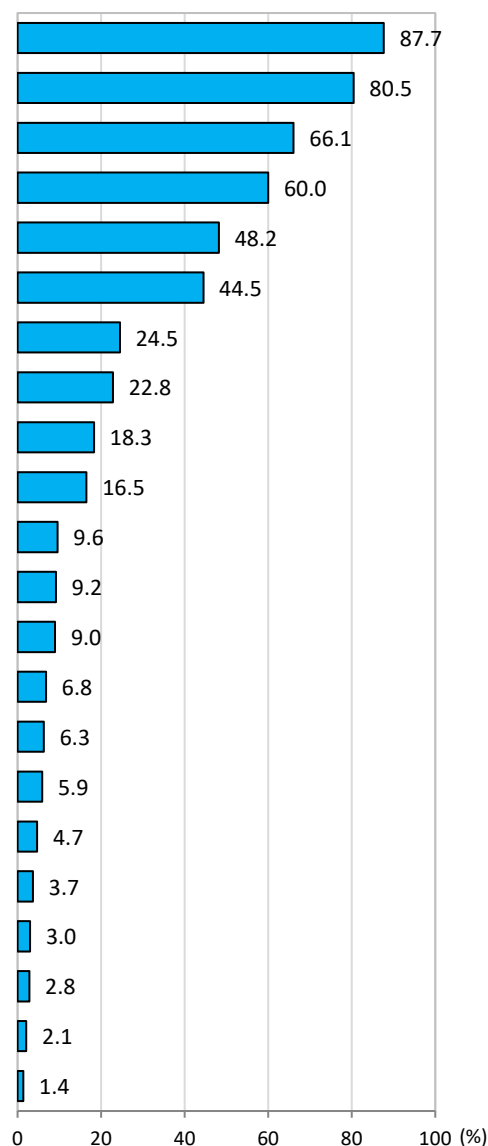
問 19 あなたは、環境問題に関する次のことば（用語、キーワード）を知っていますか。
知っているものを全て挙げてください。

◆環境知識と環境意識には深い関係

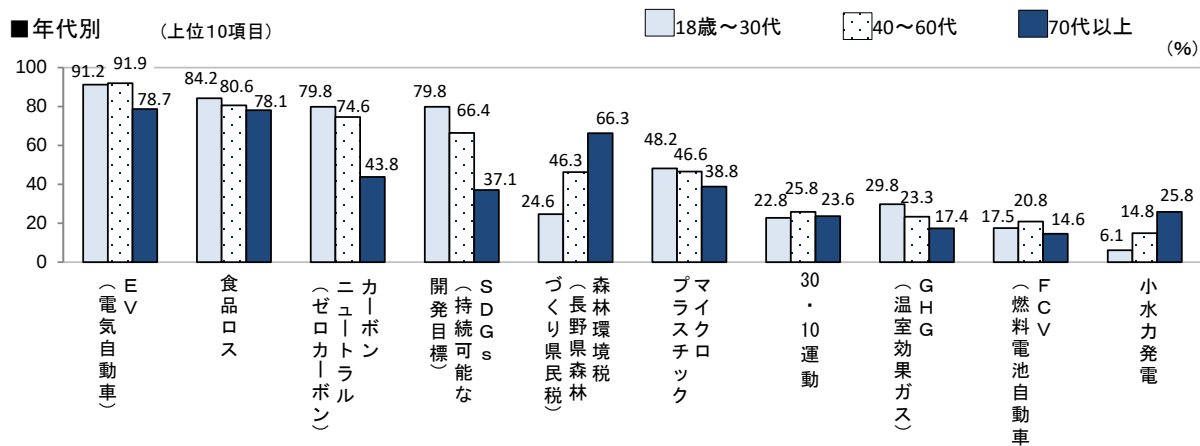
集計表59～61ページ

環境問題に関する用語の認知状況を尋ねたところ、「EV（電気自動車）」が87.7%で最も高く、次いで「食品ロス」80.5%、「カーボンニュートラル（ゼロカーボン）」66.1%、「SDGs（持続可能な開発目標）」60.0%となった。一方、「信州屋根ソーラーポテンシャルマップ」1.4%、「デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）」2.1%、「ネイチャーポジティブ」2.8%などは認知率が低く、環境問題に関する用語・キーワードでも一般への浸透度には大きな差がみられた。

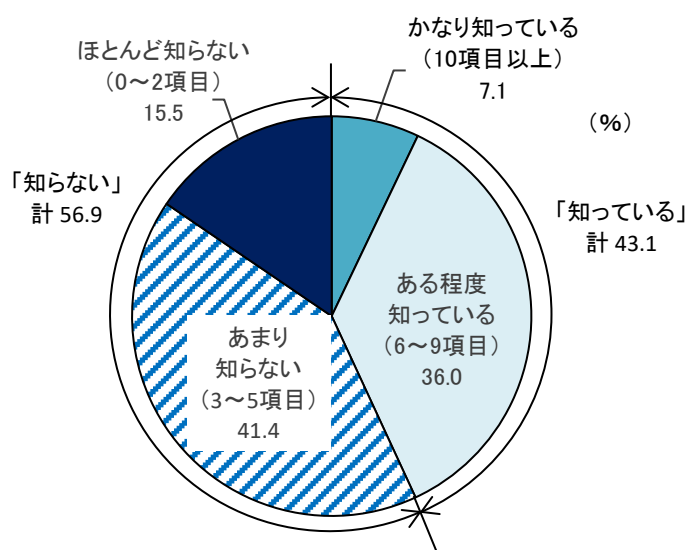
- ・EV（電気自動車）
- ・食品ロス
- ・カーボンニュートラル（ゼロカーボン）
- ・SDGs（持続可能な開発目標）
- ・森林環境税（長野県森林づくり県民税）
- ・マイクロプラスチック
- ・30・10運動
- ・GHG（温室効果ガス）
- ・FCV（燃料電池自動車）
- ・小水力発電
- ・長野県ゼロカーボン戦略（ロードマップ）
- ・ZEB（ゼロ・エネルギー・ビル）・ZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス）
- ・GX（グリーントランスフォーメーション）
- ・ESD（持続可能な開発のための教育）
- ・ESG（環境・社会・企業統治）投資
- ・IPCC（気候変動に関する政府間パネル）
- ・サーキュラーエコノミー
- ・カーボンフットプリント
- ・くらしふと信州
- ・ネイチャーポジティブ
- ・デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）
- ・信州屋根ソーラーポテンシャルマップ



年代別にみると、EV（電気自動車）、食品ロスは各年代とも高い割合となった。一方で、カーボンニュートラル、SDGsは高齢層（70代以上）で4割前後と低く、森林環境税や小水力発電は若年層（18歳～30代）で低くなり、年代によって差がみられた。



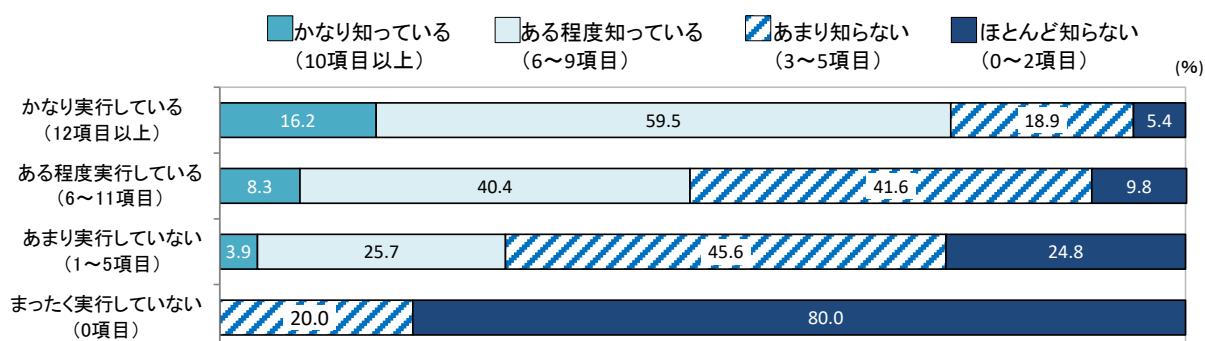
認知している用語数を集計すると、「あまり知らない (3～5項目)」が41.4%で最も多く、「ある程度知っている (6～9項目)」36.0%、「ほとんど知らない (0～2項目)」15.5%、「かなり知っている (10項目以上)」7.1%となった。



※「知っている」項目数により分類
22項目中
・10項目以上 … 「かなり知っている」
・6～9項目 … 「ある程度知っている」
・3～5項目 … 「あまり知らない」
・0～2項目 … 「ほとんど知らない」

問6 (環境のために現在実行している行動) とのクロス集計では、環境行動を多く実践している層ほど環境用語の認知数も多い傾向がみられた。「かなり実行している (12項目以上)」層では、「かなり知っている」が16.2%、「ある程度知っている」が59.5%となり、認知度の高さが際立った。一方、「あまり実行していない (1～5項目)」層では、「ほとんど知らない」が24.8%を占めており、環境行動と環境知識の間に一定の関連性が示唆された。

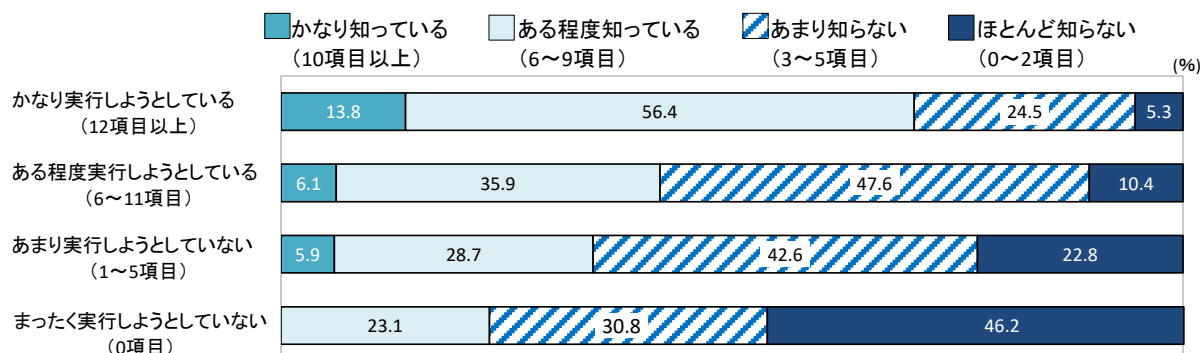
■クロス集計 問6「環境のための行動例の数」×問19「環境問題の用語知っていますか」



問 19 続き

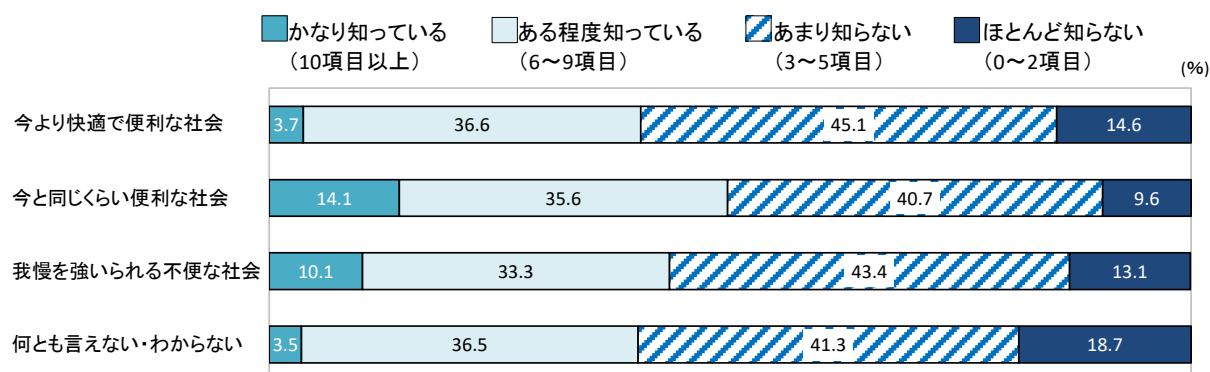
問 7（今後実行しようとしている環境行動）とのクロス集計でも同様の傾向がみられた。「かなり実行しようとしている（12 項目以上）」層では、「かなり知っている」が 13.8%、「ある程度知っている」が 56.4%となったのに対し、「まったく実行しようとしていない」層では、「ほとんど知らない」が 46.2%を占めた。環境に関する知識の蓄積が、今後の行動意欲とも結びついていることがうかがえる。

■クロス集計 問7「環境のための行動例の予定数」×問19「環境問題の用語知っていますか」



また、問 8（ゼロカーボン社会）とのクロス集計では、環境用語の認知度とゼロカーボン社会に対する見方との間に一定の関連がみられた。「今と同じくらい便利な社会」と考える層は「かなり知っている」が 14.1%と比較的高く、「ほとんど知らない」が 9.6%にとどまった。一方で、ゼロカーボン社会の利便性について「何とも言えない・わからない」と考える層では、環境用語を「ほとんど知らない」が 18.7%と高かった。

■クロス集計 問8「ゼロカーボン社会」×問19「環境問題の用語知っていますか」



「環境と暮らし2026」調査票

- ❖ 封筒の宛名に書かれたご本人様のご回答をお願い致します。
- ❖ ご回答は右端の□の中に数字をご記入ください。
- ❖ ご回答の内容によって、質問をとばしていただく場合があります。
その場合は、指示に従ってお進みください。
- ❖ 「その他」に該当する場合は、()の中に具体的内容をご記入ください。

- ① 気候変動・地球温暖化問題
(CO₂排出、メタンガス、オゾン層破壊、異常気象、海面上昇等)
- ② 生物多様性と生態系の危機
(絶滅危惧種、外来種、生物多様性の損失、鳥類・昆虫の減少等)
- ③ 森林と土地の問題
(森林伐採、森林火災、砂漠化、土地の劣化等)
- ④ 水質・水資源問題
(水質汚染、浄水資源の枯渇、地下水汚染、農業用水の不足等)
- ⑤ 海洋問題
(マイクロプラスチック、サンゴ礁白化、酸性化等)
- ⑥ 大気汚染と有害物質
(黄砂、アスベスト、ダイオキシン、酸性雨、光化学スモッグ等)
- ⑦ 廃棄物・ごみ・資源問題
(不法投棄、埋立地不足、食品ロス、家電リサイクル、使い捨て文化拡大など)
- ⑧ 都市・生活環境問題
(騒音公害、光害、空き家、景観破壊、都市交通による環境負荷など)
- ⑨ 化学・技術・エネルギー問題(原発事故と放射能汚染、再生可能エネルギーの遅れ、水素エネルギー、レアース、農薬・化学肥料など)
- ⑩ グローバル課題・未来問題
(環境難民、戦争による破壊、人口問題、SDGsの形骸化など)
- ⑪ その他
()
- ⑫ 特になし

問 2 あなたは現在、気候変動・地球温暖化に関心がありますか。

- ① 関心がある
- ② ある程度関心がある
- ③ あまり関心はない
- ④ 関心はない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

☐

問 3 ここ数年で気候変動・地球温暖化についてどの程度実感していますか。

- ① 非常に実感している
- ② やや実感している
- ③ どちらとも言えない
- ④ あまり実感していない
- ⑤ まったく実感していない

☐

問 4 あなたは現在、生物多様性の喪失に関心がありますか。

- ① 関心がある
- ② ある程度関心がある
- ③ あまり関心はない
- ④ 関心はない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

☐

問 5 ここ数年で生物多様性の喪失についてどの程度実感していますか。

- ① 非常に実感している
- ② やや実感している
- ③ どちらとも言えない
- ④ あまり実感していない
- ⑤ まったく実感していない

☐

問 6 あなたは日ごろ、次に挙げる環境のためになること（環境に配慮した暮らし）の行動例のうち、実行していることはありますか。あてはまるものを全て挙げてください。（該当する番号の左側に○印を付けてください）

地球温暖化対策関係		①	省エネ、節電を実施している
		②	省エネ性能を意識して家電を買い替えている
		③	E Vやハイブリッド自動車などエネルギー効率の良い車に乗っている
		④	エコドライブ（アイドリングストップや急発進・急加速をしない等）を心掛けている
		⑤	宅配便の1回での受け取り（日時指定や置き配などにより再配達の削減）を心掛けている
		⑥	太陽光パネルを設置している
		⑦	地場産食材の購入を心掛けている
自然保護関係		⑧	野生生物保護、自然再生、外来動植物駆除（アレチウリ駆除等）の活動に参加したことがある
		⑨	自然観察会に参加したことがある
水・大気関係		⑩	節水を実施している
		⑪	洗濯や食器洗いの洗剤の量を控えめにしている
		⑫	公共交通機関や自転車を積極的に利用している
廃棄物関係		⑬	ごみの排出削減（食べ残し削減、家庭の食品ロス削減など）を心掛けている
		⑭	ごみの分別やリサイクルを心掛けている
		⑮	マイバッグやマイボトルを使用している
		⑯	詰め替え製品（洗剤など）の購入を心掛けている
その他		⑰	エコラベル（エコマークなど）掲載商品の購入を心掛けている
		⑱	環境に関する講習会や勉強会に参加したことがある

問 7 これから実行しようと思うこと、より努力したり協力したりしようと思うことはありますか。(該当する番号の左側に○印を付けてください)

地球温暖化対策関係		①	省エネ、節電の実施
		②	L E Dや省エネ性能の高い家電へ買い替え
		③	E Vやハイブリッド等エネルギー効率の良い車への買い替え
		④	エコドライブの心掛け
		⑤	宅配便の1回での受け取り
		⑥	太陽光パネルの設置
		⑦	太陽光以外の再生可能エネルギーを利用(小水力・地熱等)
		⑧	住宅の断熱性能を高める、又は高断熱住宅を購入
		⑨	地場産食材の購入
護自然関係保		⑩	野生生物保護、自然再生、外来動植物駆除等活动参加
		⑪	自然観察会への参加
保水全・関大係気		⑫	節水実施
		⑬	洗濯・食器洗い洗剤量の削減
		⑭	公共交通機関や自転車の積極利用や徒歩での移動
廃棄物関係		⑮	ごみの排出削減(食べ残し、食品ロス削減等)を心掛ける
		⑯	ゴミの分別やリサイクルを心掛ける
		⑰	マイバッグ、マイボトル使用
		⑱	詰め替え製品購入
その他		⑲	エコラベル(エコマーク)掲載商品購入
		⑳	環境に関する講習会や勉強会への参加

問 8 あなたは主要な温室効果ガスである二酸化炭素(CO₂)排出量が実質ゼロの社会(ゼロカーボン社会)では、暮らしの利便性はどのようになると思いますか。

- ① 今より快適で便利な社会
- ② 今と同じくらい便利な社会
- ③ 我慢を強いられる不便な社会
- ④ その他 ()
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問 9 現在は利用する電力会社を選べますが、発電方式で選択するとしたら、どの発電方式が望ましいと思いますか。次の中から、あてはまるものを全て挙げてください。（該当する番号の左側に○印を付けてください）

- | | |
|--------------------------|---|
| ☐ | ① 再生可能(自然)エネルギー(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど) |
| ☐ | ② 石炭・天然ガスなどの火力 |
| ☐ | ③ 原子力 |
| ☐ | ④ 購入せず自家発電で自給自足する(太陽光、エネファーム＝ガスなどによる発電) |
| ☐ | ⑤ その他 () |
| ☐ | ⑥ 特に気にしていない・わからない |

問10 太陽光発電は、クリーンなエネルギーで環境にやさしいだけでなく、その電気を自宅で使うことで電気代を削減したり、災害にも備えることができます。あなたのお宅では、太陽光発電を導入していますか。

- | | | |
|------------------------|---------------|--------------------------|
| ① 太陽光発電を導入している | → 問11、13(次頁)へ | ☐ |
| ② 今はしていないが、今後導入したい | → 問13(次頁)へ | |
| ③ 導入する予定はない | → 問12、13(次頁)へ | |
| ④ (マンション・賃貸などで) 導入できない | → 問13(次頁)へ | |

問11 (問10で①とお答えの方にお尋ねします)
太陽光発電の導入を決めた理由は何ですか。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ① 売電収入が得られるから | ☐ |
| ② 電気代を節約できるから | |
| ③ 災害・停電へ備えることができるから | |
| ④ ゼロカーボンに貢献できるから | |
| ⑤ 設備するのが当たり前だから | |
| ⑥ その他 () | |
| ⑦ 特になし | |

問12 (問10で③とお答えの方にお尋ねします)
あなたが太陽光発電を導入しない理由として一番大きなものを選択してください。

- | | |
|--|--------------------------|
| ① 設置費用が高いから | ☐ |
| ② どれくらいお得かわからないから | |
| ③ 適切なメーカー・販売業者、設置の方法等がわからないから | |
| ④ ご自宅が太陽光発電に適していないから
(例：日当たりが悪い、積雪が多い、築年数等により設置が困難など) | |
| ⑤ 導入を検討する余裕がないから | |
| ⑥ 太陽光発電に興味がない・嫌いだから | |
| ⑦ その他 () | |

(全員の方にお尋ねします)

問13 長野県で実施している以下のA、B、Cのプロジェクトについて①～③の番号に○印を付けてください。

		実践 知っ てお い る	実践 知っ てい るが ない	知 ら ない
A	信州スマートムーブウィーク	①	②	③
B	信州プラスチックスマート運動	①	②	③
C	食べ残し～e-プロジェクト～	①	②	③

次の問 14～15 は、お勤めをされている方にお尋ねします
学生の方、無職の方など通勤をされていない方は➡問 16 へお進みください

問14 あなたは、通勤の際、主に何を利用していますか。

- ① マイカー・社用車等の自動車
- ② 公共交通機関
- ③ 自転車、バイク
- ④ 徒歩
- ⑤ 在宅勤務が中心
- ⑥ その他 ()

問15 電気自動車（EV）の購入を検討する場合、どのような懸念事項がありますか。
次の中からあてはまるもの全てに○印を付けてください。

- ☐ ① 購入価格が高い
- ☐ ② 外出先で充電できる場所が少ない
- ☐ ③ 充電に時間がかかる（外出先の急速充電器の容量が小さい）
- ☐ ④ 満充電で走れる距離が短い
- ☐ ⑤ 車種が少ない
- ☐ ⑥ 積雪時や山間部での走行に不安がある
- ☐ ⑦ 自宅に充電器が設置できない（集合住宅など）
- ☐ ⑧ その他 ()

(全員の方にお尋ねします)

問16 長野県民1人当たりの1日のごみ(一般廃棄物)排出量は、令和5年度実績で770gと全国トップ水準(4位)です。あなた自身の生活の中から出るごみの量についてどう思いますか。

- ① もっと減らす余地がある
- ② 現在の量を維持したい
- ③ もっと多く出そうだ
- ④ その他 ()
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問17 容器、袋など、プラスチックごみによる、海洋汚染などが問題化しています。プラスチックごみを減らすために、あなたが日ごろ、心掛けていますか。次の中から、あてはまるものを全て挙げてください。
(該当する番号の左側に○印を付けてください)

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| ☐ | ① レジ袋は買わない、または受け取らない |
| ☐ | ② マイバッグやマイボトルを使用する |
| ☐ | ③ 詰め替え製品を利用する |
| ☐ | ④ 分別・リサイクルをする |
| ☐ | ⑤ 河川一斉清掃等のボランティア活動に参加する |
| ☐ | ⑥ その他 () |
| ☐ | ⑦ 特になし |

問18 あなたは、次に挙げるエシカル消費(※)につながる行動について、実践しているものはありますか。あてはまるものを全て挙げてください。
(該当する番号の左側に○印を付けてください)

- | | |
|--------------------------|--|
| ☐ | ① マイバッグ・マイ箸・マイカップ等の利用 |
| ☐ | ② リサイクル活動・リサイクル品の購入 |
| ☐ | ③ 電気をこまめに消す等の省エネ |
| ☐ | ④ 太陽光・風力発電など再生可能エネルギーの利用・購入 |
| ☐ | ⑤ 環境に配慮した商品(エコカー、エコラベル商品、持続可能な林産物海産物等を含む)の購入 |
| ☐ | ⑥ 有機食品・製品の購入 |
| ☐ | ⑦ 地産地消(地場産食材の購入) |
| ☐ | ⑧ 国産品の購入 |
| ☐ | ⑨ 食品ロス削減 |
| ☐ | ⑩ 被災地へお金の寄付や物資提供 |
| ☐ | ⑪ 地域コミュニティ活動への参加 |
| ☐ | ⑫ その他(具体的に) |

※ エシカル消費 地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のこと

問19 あなたは、環境問題に関する次のことば(用語、キーワード)を知っていますか。
知っているものを全て挙げてください。(該当する番号の左側に○印を付けてください)

- | | |
|--------------------------|---|
| ☐ | ① E S D (持続可能な開発のための教育) |
| ☐ | ② E S G (環境・社会・企業統治) 投資 |
| ☐ | ③ E V (電気自動車) |
| ☐ | ④ F C V (燃料電池自動車) |
| ☐ | ⑤ G H G (温室効果ガス) |
| ☐ | ⑥ G X (グリーントランスフォーメーション) |
| ☐ | ⑦ <small>アイピーシーシー</small> I P C C (気候変動に関する政府間パネル) |
| ☐ | ⑧ <small>エスディージーズ</small> S D G s (持続可能な開発目標) |
| ☐ | ⑨ <small>ゼ</small> Z E B (ゼロ・エネルギー・ビル)・ <small>ゼ ッ チ</small> Z E H (ゼロ・エネルギー・ハウス) |
| ☐ | ⑩ カーボンニュートラル (ゼロカーボン) |
| ☐ | ⑪ カーボンフットプリント |
| ☐ | ⑫ サーキュラーエコノミー |
| ☐ | ⑬ デコ活 (脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動) |
| ☐ | ⑭ ネイチャーポジティブ |
| ☐ | ⑮ マイクロプラスチック |
| ☐ | ⑯ くらしふと信州 |
| ☐ | ⑰ 小水力発電 |
| ☐ | ⑱ <small>サンマル</small> 3 0 ・ <small>イチマル</small> 1 0 運動 |
| ☐ | ⑲ 食品ロス |
| ☐ | ⑳ 信州屋根ソーラーポテンシャルマップ |
| ☐ | ㉑ 森林税 (長野県森林づくり県民税) |
| ☐ | ㉒ 長野県ゼロカーボン戦略 (ロードマップ) |

問20 あなたは、「長野県環境保全協会」を知っていますか。

- ① 知っている
② 聞いたことはある
③ 知らない

☐

(問20のお答えにかかわらず、全員の方にお尋ねします)

問21 長野県環境保全協会では、次のような事業を行っています。あなたが、知っている事業がありましたら、全て挙げてください。

(該当する番号の左側に○印を付けてください)

- | | |
|--------------------------|--------------------------------------|
| ☐ | ① 信州エコ大賞の表彰 |
| ☐ | ② 小中学生を対象とした「2050 信州ゼロカーボンチャレンジ」の実施 |
| ☐ | ③ 「うんこドリル地球温暖化 長野県編」の提供 |
| ☐ | ④ 年末(年始)のカレンダー・手帳プレゼント会の実施 |
| ☐ | ⑤ デジタル地球儀(触れる地球儀・スフィア)を活用したセミナー等の開催 |
| ☐ | ⑥ 環境啓発に関する教材や実験機器等の貸出 |
| ☐ | ⑦ 信州スマートムーブ通勤ウィーク(旧県下一斉ノーマイカー通勤ウィーク) |
| ☐ | ⑧ 信州環境イベントポータル「信州えこなび」の運営 |
| ☐ | ⑨ 信州環境カレッジの運営 |
| ☐ | ⑩ 信州環境フェアの実施(実行委員会への参画) |
| ☐ | ⑪ 会報誌「エコシン」の発行 |
| ☐ | ⑫ 再配達削減キャンペーンの実施 |
| ☐ | ⑬ テレビ番組「エコロジー最前線」の提供 |
| ☐ | ⑭ FM長野・LCV・FMぜんこうじの環境コーナーへの出演 |
| ☐ | ⑮ 県内各地の環境イベントへの出展 |
| ☐ | ⑯ くらしふと信州のコーディネート業務 |
| ☐ | ⑰ 地球温暖化防止活動推進センターの運営 |
| ☐ | ⑱ 知っている事業はない |

問22 地球温暖化または環境問題の全般について、思うところがありましたら、お書きください。

--

